

KG1

89



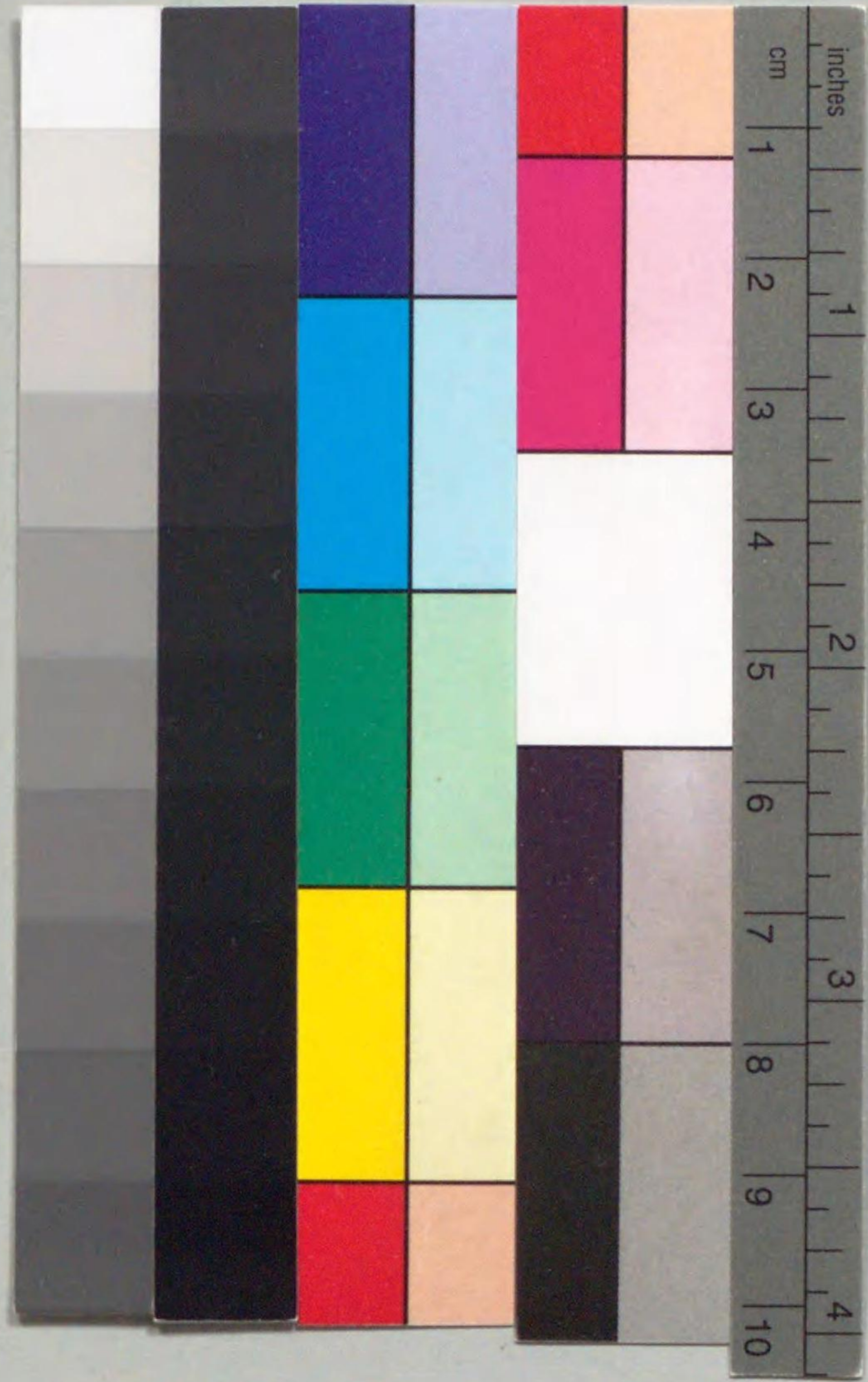
82W48412

日本圖書館協會創立三十年記念

江戸時代小説類展覧會陳列書目録

大正十二年五月

日本圖書館協會



KG1
89



82W48412

例言

- 一、本目録は大正十二年五月十九、二十日の兩日日本圖書館協會創立三十年記念行事の一として催せる江戸時代小説類展覽會に陳列の圖書を収載せるものなり。
- 二、該展覽會の主旨は江戸時代約二百七十年間に庶民慰樂の料となりし稗史小説類の發達沿革の大觀を與へんとするに在りて、敢て珍本稀書を披露して文學研究家及奇書蒐集家の眼を驚さんと欲するにあらず。故に本目録の示すが如く陳列書は概ね多衆の目觀を経たるものにして稀觀罕行に屬する類甚だ少し。且本展覽會張行に關する準備に多くの日子を費す能はず、隨ひて諸家を歴訪して藏書出陳を請ふの勞を省かざるを得ざることとなりしは、本展覽會をして奕々たる光彩を缺かしめたる所以なり。然れども小説類の各種に互りて稍豊富なる量を集め得たるは本協會に對して同情最も深き四五の圖書館及藏書家の好意によれり。此點に於て本協會は帝國圖書館、東京帝國大學附屬圖書館、岩崎文庫、安田松廼舍文庫等に對して深甚の謝意を致さんとす。

三、陳列書の類別は或は書籍の型式に由り或は其内容に基く等終始一串を缺く嫌あれど、文學史上の慣例に循ふを便とするの故を以て強て理則に拘らざることとし、同一類下に在りては書籍刊行の年代を排列の表準とせり。但刊年の明ならざるものは編者の推定に任せて列次したるもあり。

四、陳列を豫定したる書籍中現藏處より一時他出等の事故ありて陳列期日までに回収の運に至らず、爲に本目録には其名を掲げながら現品の出陳無きもの若干部あり。列品の題名箋に「缺現品」と註せるもの即ち是なり。

五、本目録の印行につきて安田善次郎氏及石川照勤師の援助を蒙るところ少からず。爰に掲げて其厚意を謝す。

六、本目録の編纂並に印行につきては樋口慶千代、島崎末平、鹿島則泰諸氏各繁劇なる公務の餘暇を以て之に當られたり。爰に特筆して其勞を謝す。

大正十二年五月十日
日本圖書館協會展覽會委員識す

江戸時代小説類展覽會陳列書目録

目次

第一	御伽草紙類並假名草紙中の小説類	一
	本地物及因果談	七
第二	西鶴及其流派の作物	一〇
	イ 西鶴	一〇
	ロ 西鶴派	一三
第三	自笑、其磧及其流派	一九
	イ 自笑及其磧	一九
	ロ 自笑其磧派	二四
第四	赤本類	三二
第五	黒本類	三六



第六	黃表紙類	四〇
第七	讀本類	四七
	イ 普通本	四七
	ロ 中本	五七
	ハ 軍談類	六一
第八	洒落本類	六三
第九	噺本類	六八
第十	怪談本類	六七
第十一	滑稽本類	九一
第十二	人情本類	九六
第十三	草雙紙(合卷物)類	一〇一

插圖目次

第一圖	伊曾保物語元和活版卷一首端 伊曾保物語寛永活版卷一首端	二一三
第二圖	諸艶大鑑卷二插圖	一〇一一
第三圖	近代艶隱者卷三插圖	一〇一一
第四圖	棠大門屋鋪 <small>卷三插圖及 卷五末端</small>	一四一五
第五圖	野白内證鏡卷三插圖	一八一九
第六圖	御伽名題紙衣卷一插圖	二二二三
第七圖	政道狐宿替中、下卷繪外題	三六一三七
第八圖	大悲千祿本	四〇一四一
第九圖	作者胎内十月圖 <small>著者山東京傳 自筆稿本</small>	四四一四五
第十圖	敵討記乎汝	四四一四五

第十一圖 優曇華物語卷四插圖……………四八—四九

第十二圖 眞女意題插圖……………六六—六七

第十三圖 戲言養氣集首尾……………七六—七九

第十四圖 露五郎兵衛新はなし插圖……………八〇—八一

第十五圖 怪談御伽櫻卷一插圖……………八八—八九

第十六圖 照子池浮名寫繪著者曲亭馬琴
自筆稿本……………一〇一—一〇三

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

一 御伽草紙(横本)

刊本 十七部二十五册

一寸ぼふし 一册・唐糸草紙 下一册・こあつもり 一册・木幡ぎつね 一册・さかき 一册・さざれいし 一册・
 さるげんじ 二册・三十六歌仙 一册・二十四孝 上一册・のせざる 一册・はまいで草紙 一册・はまぐりの草紙
 二册・百人一首 二册・文しやうさうし 三册・ぼんでんこく 三册・ものくさ太郎 二册・よこぶえ 一册
 御伽草紙は室町時代の撰述にかゝるもの多けれど亦慶長以後の作も少からず、殊に刊本として流行す
 るに至りしは江戸時代の初期に屬するを以て此に收めたり。

二 鉢かづきのさうし

萬治頃刊 二卷二册 (丹緑本)

三 はちかづき

江戸 寛文六年刊 二卷合一册 (丹緑本)

四 はちかづき

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

江戸 延寶四年刊 二卷二册 (丹綠本)

五 はちかづき

近藤清春畫(?) 寶永七年刊(?) 二卷一册

六 はちかづき姫

享保十二年刊 二卷一册

七 はまぐりはたおりひめ

明曆二年刊 二卷二册

八 文正物語

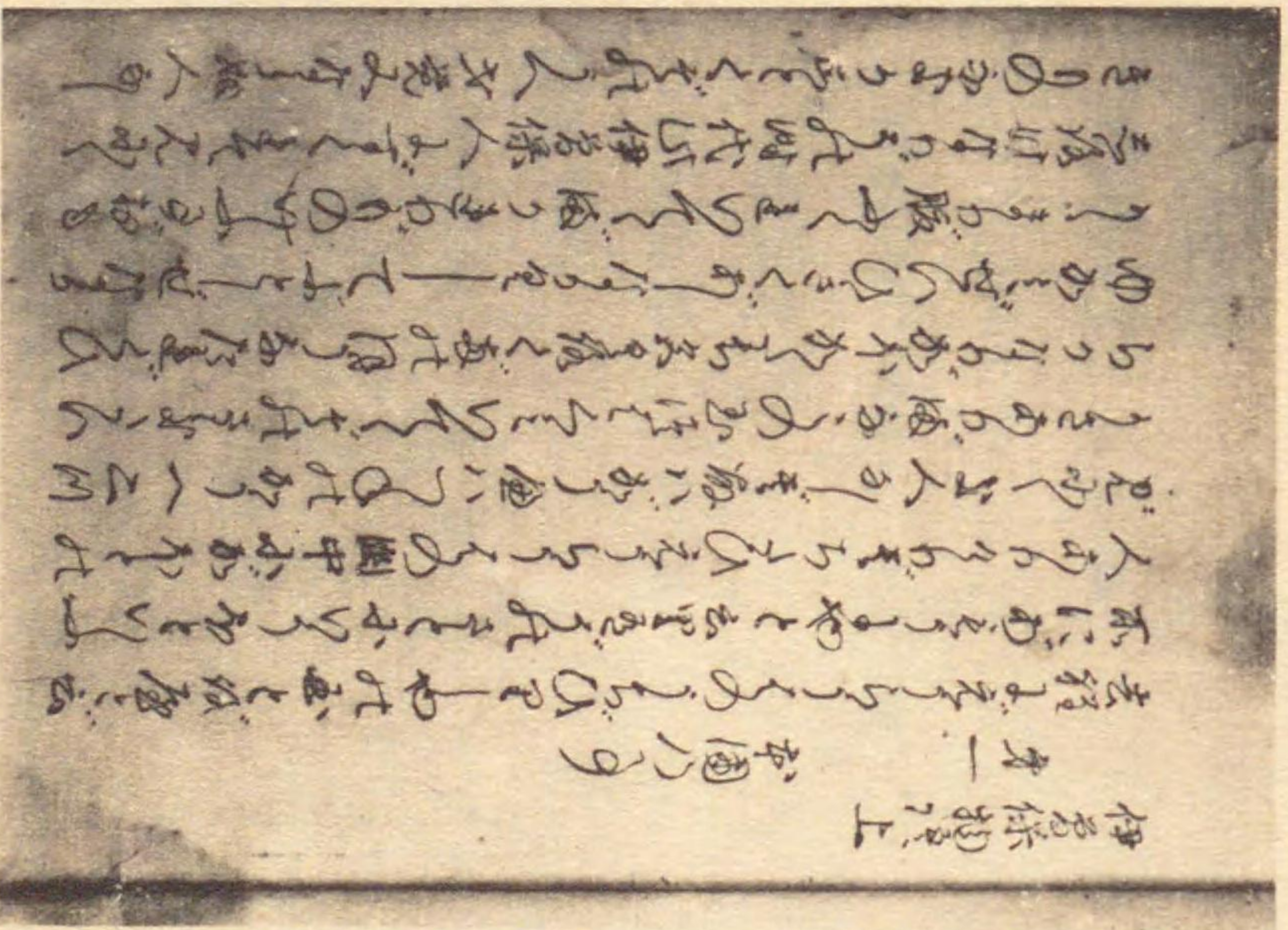
寛文十一年刊 二卷二册

九 伊曾保物語

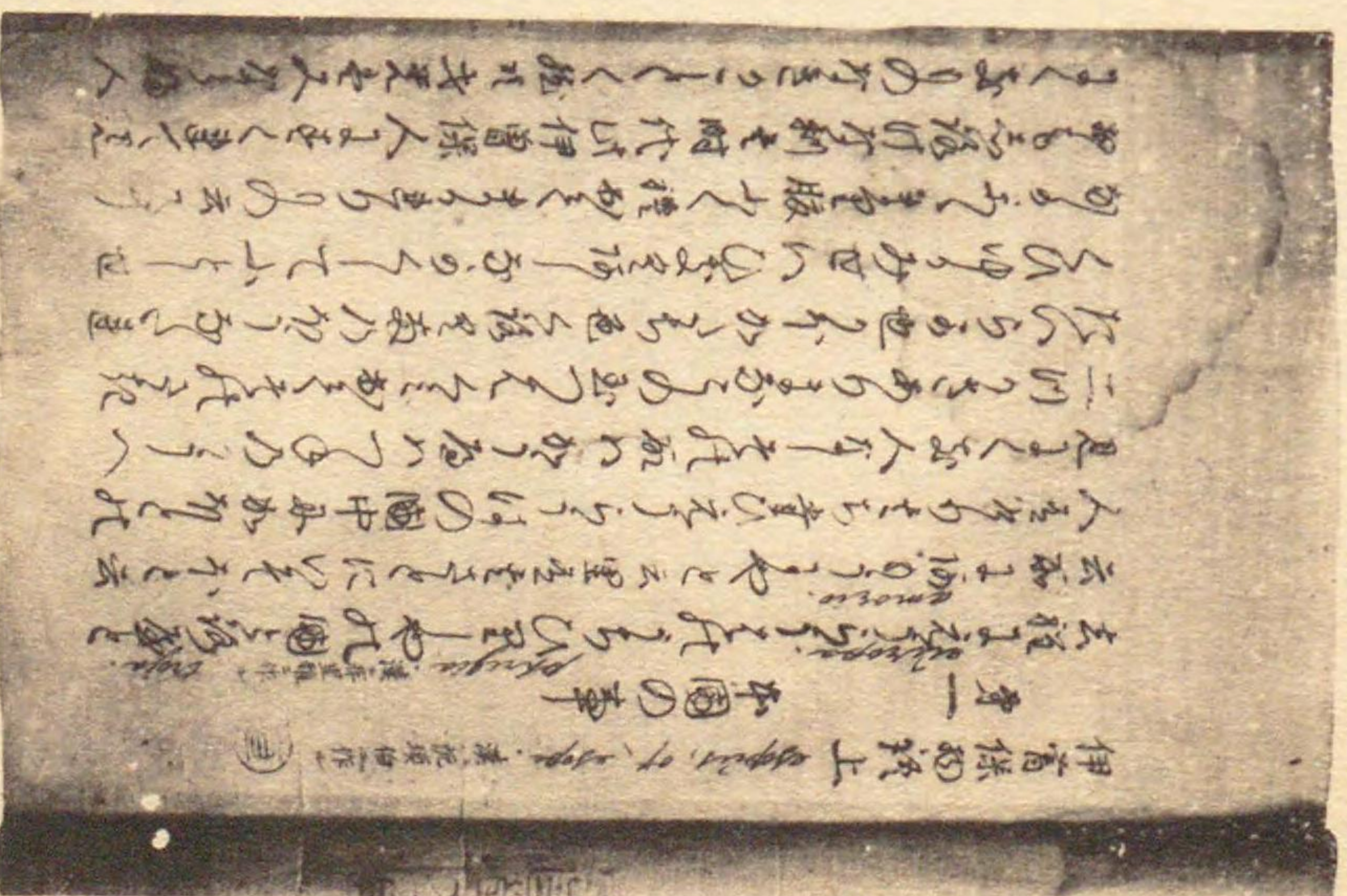
元和年間刊(?) (活版) 三卷三册

イソップ物語の和譯は是より先文祿二年天草にて出版の羅馬字譯本あれど、國字を以てせるは此本を初とす。但し元和寛永間に三四版ありて孰も活字版なり。插圖本は(一一)の萬治二年版に始る。

伊曾保物語 上巻末頁端 (安貞書館蔵)



端首一卷 (版活永寛) 語物保曾伊



端首一卷 (版活和元) 語物保曾伊 圖一第

一〇 伊曾保物語

寛永年間刊(活版) 三卷三册

二 伊曾保物語

萬治二年刊 三卷三册

三 うらみのすけ

寛永年間刊(活版) 二卷二册

三 うらみのすけ

寛文四年刊 二卷二册

四 辨慶物語

寛永頃刊 二卷二册

五 辨慶物語

慶安四年刊 二卷二册

六 あだ物がたり

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

正木爲春撰 京都 寛永十七年刊 二卷二册

二七 可笑記

如儡子撰 寛永十九年刊 五卷五册

真假相半せる古代の逸話傳説等に教訓の意を寓せるものにて、教訓的小話集の起原をなしたり。

二八 可笑記

如儡子撰 京都 萬治二年刊 五卷五册

二九 つるぎのちぢり

承應二年刊 一册 (丹緑本)

三〇 よこぶえたきぐちのさうし

明暦四年刊 一册

三一 松風村さめ

萬治二年刊 三卷三册

三二 一本菊

江戸 萬治三年刊 三卷三册

三三 一もござく

刊本 一册

三四 ゆきをんな物語

菱川師宣畫 萬治三年刊 二卷二册

三五 をぐら物語

寛文元年刊 三卷三册

三六 楊貴妃物語

寛文三年刊 一册 (丹緑本)

三七 法妙童子

江戸 寛文六年刊 三卷三册

三八 法妙童子

刊本 三卷三册

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

元 青葉のふえの物がたり

寛文七年刊 二卷二册

三 判官みやこばなし

寛文十年刊 五卷五册

三 しぐれのえん

江戸 寛文十一年刊 三卷三册 (丹緑本)

三 しぐれのえん(外題、時雨物語)

天和四年刊 三卷三册

三 しぐれ

刊本 三卷三册 (丹緑本)

三 うすゆきものがたり

菱川師宣畫 江戸 貞享三年刊 二卷一册

三 衣更着物語

京都 貞享五年刊 二卷二册

三 戀塚物語

刊本 二卷二册

三 たけだ物がたり

刊本 一册

三 火おけのさうし

刊本 一册 (丹緑本)

三 名古屋文菊女之譽

菱川師宣畫 江戸 貞享頃刊 一册

四 理屈物語

大坂 享保二十年刊 六卷一册



四 阿彌陀御本地

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

第一 御伽草紙及假名草紙中の小説類

刊本 一冊 (丹緑本)

四二 釋迦の本地

慶安元年刊 三卷三冊合一冊

四三 愛宕地藏之物語

京都 承應二年刊 三卷三冊 (丹緑本)

四四 あみだはだか物語

明暦二年刊 二卷二冊

四五 毘沙門の本地

萬治二年刊 二卷二冊

四六 月日の御本地

江戸 寛文七年刊 二卷二冊

四七 くまののほんぢ

刊本 三卷三冊 (丹緑本)

四八 二人びくに

鈴木正三撰 寛文四年刊 二卷二冊

四九 戒殺物語

寛文四年刊 二卷二冊

五〇 ざんげ物語

江戸 天和二年刊 三卷三冊

第二 西鶴及其流派

1、西鶴

一 好色一代男

井原西鶴撰並畫 大坂 天和二年刊 八卷八册

本書は鬼才西鶴が浮世草子最初の試なり。これによりて假名草子の面目一新し漸次所謂好色本の流行となれり。尙本書の插图並本文版下が著者の筆作なるは亦珍とすべし。

二 好色一代男

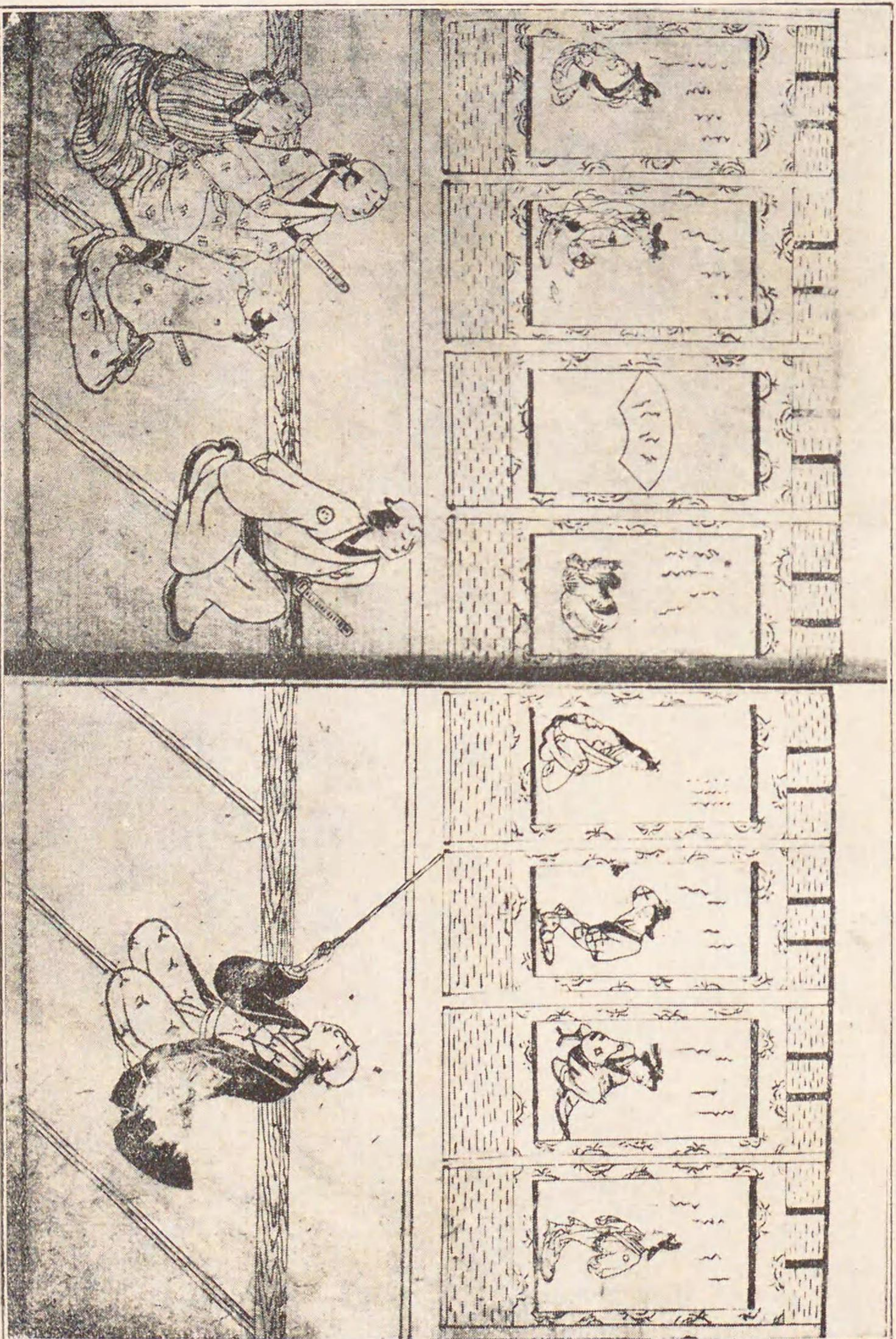
井原西鶴撰 江戸 貞享四年刊 七卷七册

前掲大坂版に對して特に江戸版の出でたるは、以て本書の時好に投じて盛行せしさまを想像すべし。

三 好色二代男 諸艶大鑑

井原西鶴撰並畫 江戸 貞享元年刊 八卷八册

四 好色二代男



圖插二卷鑑大艶諸圖二第

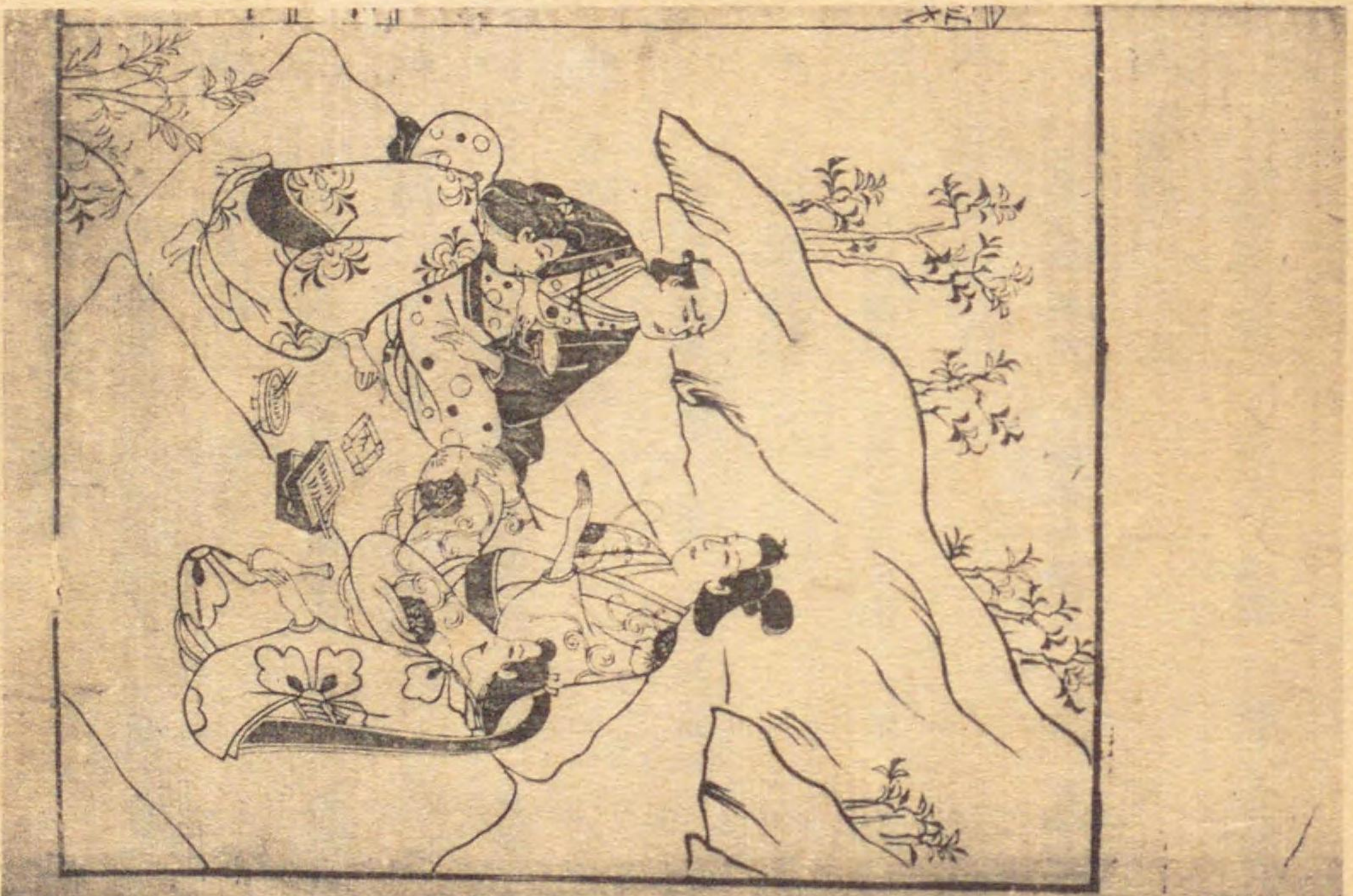


圖 插 三 卷 者 隱 艷 代 近 圖 三 第

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 京都 貞享三年刊 五卷五册

五 好色一代女

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 貞享三年刊 六卷六册

六 好色五人女

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 貞享三年刊 五卷五册

七 近代艶隱者

井原西鶴撰並畫 大坂 貞享三年刊 五卷五册

八 本朝二十不孝

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 貞享三年刊 五卷五册

九 本朝二十不孝

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 江戸 貞享四年刊 五卷五册

一〇 男色大鑑

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 貞享四年刊 八卷八册

第二 西鶴及其流派

二 諸國敵討 武道傳來記

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 江戸 貞享四年刊 八卷八册

三 武家義理物語

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 貞享五年刊 五卷五册

三 日本永代藏

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 貞享五年刊 六卷六册

四 新可笑記

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 元祿元年刊 五卷五册

五 本朝櫻陰比事

井原西鶴撰、吉田半兵衛畫 大坂 元祿二年刊 五卷五册

六 世間胸算用

井原西鶴撰、蒔繪師源三郎畫(?) 大坂 元祿五年刊 五卷五册
本書は西鶴存生中の最後の出版にして、蓋し掉尾の偉觀なり。

七 西鶴置土産

井原西鶴撰、蒔繪師源三郎畫(?) 京都 元祿六年刊 五卷五册

八 西鶴織留(本朝町人ががみ)

井原西鶴撰、蒔繪師源三郎畫(?) 京都 元祿七年刊 六卷六册

九 俗徒然

井原西鶴撰、蒔繪師源三郎畫 京都 元祿八年刊(後刷本) 四卷四册

一〇 萬の文反古

井原西鶴撰、蒔繪師源三郎畫(?) 京都 元祿九年刊 五卷五册

ロ、西鶴の流派

三 貧人太平記

貞享五年刊 三卷一册

三 日本好色名所鑑(原題^{以原}日本名所好色大鑑)

藤木盛庸撰 京都 元祿五年刊 五卷一册

第二 西鶴及其流派

第二 西鶴及其流派

三 忘花

如醉撰 京都 元祿九年刊 五卷一冊

四 玉帶子

林義端(文會堂)撰 江戸 元祿九年刊(後刷本) 六卷六冊

五 西鶴冥途物語

泡影撰 元祿十年刊 五冊

六 新色五卷書

西澤興志(一風)撰 大坂 元祿十一年刊 五卷五冊

七 好色文傳授

由之軒政房撰 京都 元祿十二年刊 五卷五冊

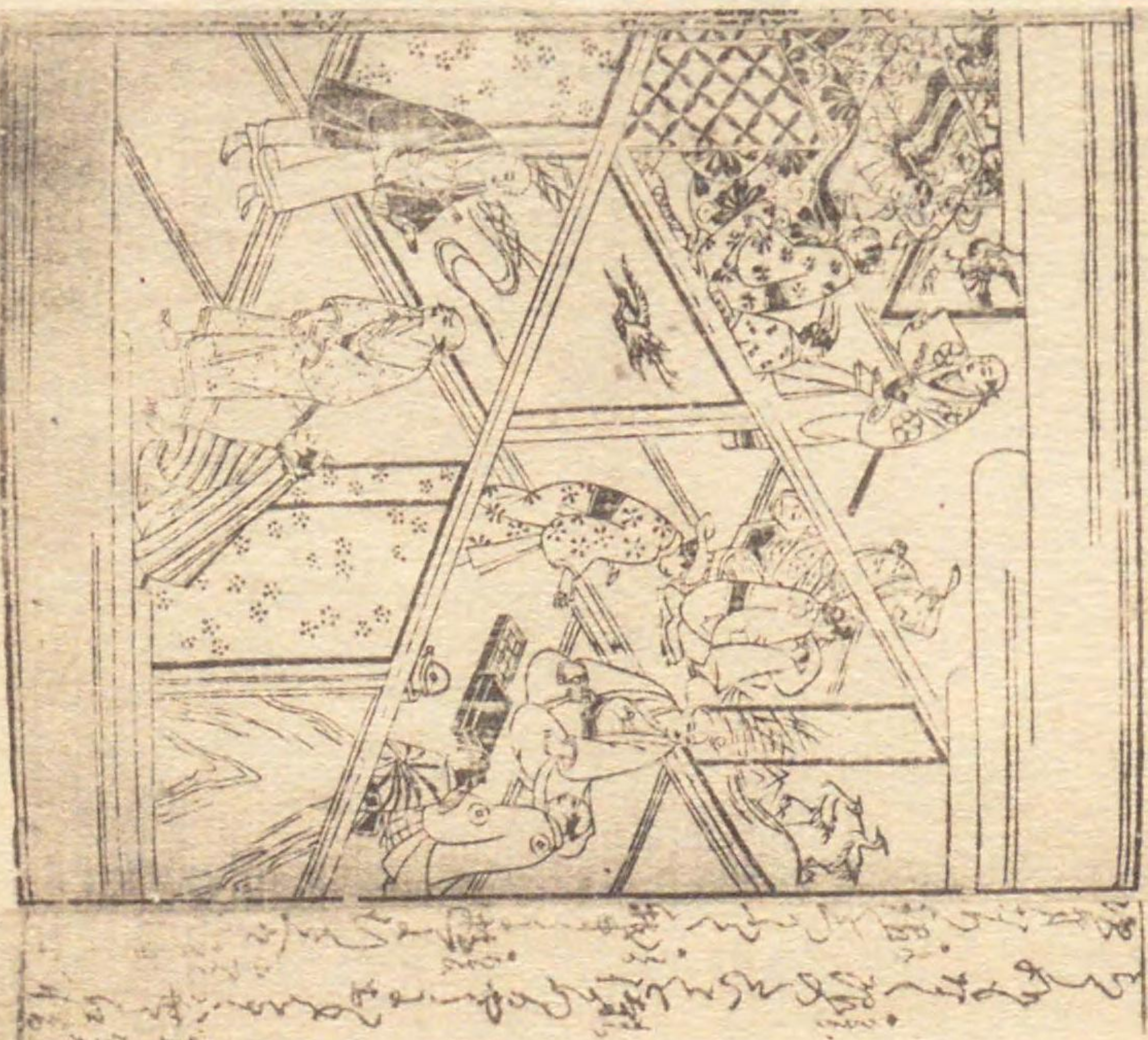
八 寬濶曾我物語

大坂 元祿十四年刊 十二卷六冊

九 風流神代卷

文化十二年甲戌六月下浣更表裝
收蔵于洒落齋書庫
式亭三馬

寶永二丁酉年
書林松壽堂開
仲其吉日
萬屋茂太郎板



都の錦撰 大坂 元祿十五年刊 六卷四册

三 諸藝太平記(卷頭、元祿太平記)

梅蘭堂(都の錦)撰 京都 元祿十五年刊 八卷八册

三 東海道敵討元祿曾我

都の錦撰 京都 元祿十五年刊 五卷五册

三 風流今平家

西澤與志(一風)撰 大坂 元祿十六年刊 十卷五册

三 風流夢浮橋

西滴菴松林撰 大坂 元祿十六年刊 六卷六册

三 筆の初染

今西鶴撰 寶永二年刊 五卷五册

三 棠大門屋敷カラナシ

錦文流撰 大坂 寶永二年刊 五卷五册

第二 西鶴及其流派

三 傾城武道櫻

西澤與志(一風)撰 京都 寶永二年刊 五卷五册

三 傾城太太神樂

大坂 寶永二年刊 六卷六册

三 熊谷女編笠

錦文流撰 江戸等 寶永三年刊 五卷五册

三 御伽百物語

白梅園(青木鷺水)撰 江戸 寶永三年刊 六卷六册

四 新武道傳來記

北條團水撰 京都等 寶永三年刊 六卷六册

四 京縫鎖帷子

森本東鳥撰 京都 寶永三年刊 四卷四册

四 伊達髮五人男

三 傾城武道櫻

西澤與志(一風)撰 京都 寶永二年刊 五卷五册

三 傾城太太神樂

大坂 寶永二年刊 六卷六册

三 熊谷女編笠

錦文流撰 江戸等 寶永三年刊 五卷五册

三 御伽百物語

白梅園(青木鷺水)撰 江戸 寶永三年刊 六卷六册

四 新武道傳來記

北條團水撰 京都等 寶永三年刊 六卷六册

四 京縫鎖帷子

森本東鳥撰 京都 寶永三年刊 四卷四册

四 伊達髮五人男

西澤與志(一風)撰 京都 寶永四年刊 五卷五册

三 晝夜用心記

北條團水撰 京都等 寶永四年刊 六卷六册

四 茶傾腹立顔

西澤與志(一風)撰 大坂 寶永五年刊 三卷三册

三 關東名殘の袂

忍岡やつかれ撰、奥村政信畫 江戸 寶永五年刊 五卷五册

三 高名太平記

青木鷺水撰 寶永頃刊 九卷十册

三 御前義經記

西澤與志(一風)撰 大坂 正徳二年刊 八卷八册

三 一夜船

北條團水撰 大坂 正徳二年刊 五卷五册

第二 西鶴及其流派

此書享保十一年に至り「怪談諸國物語」と改題再版せり。

四 日本新永代藏

北條團水撰 大坂 正徳三年刊 六卷一册

五 日本新永代藏(今世長者鑑)

北條團水撰 刊本五卷五册

六 本朝智恵鑑

北條團水撰 京都 正徳三年刊 六卷三册

七 西鶴傳授車

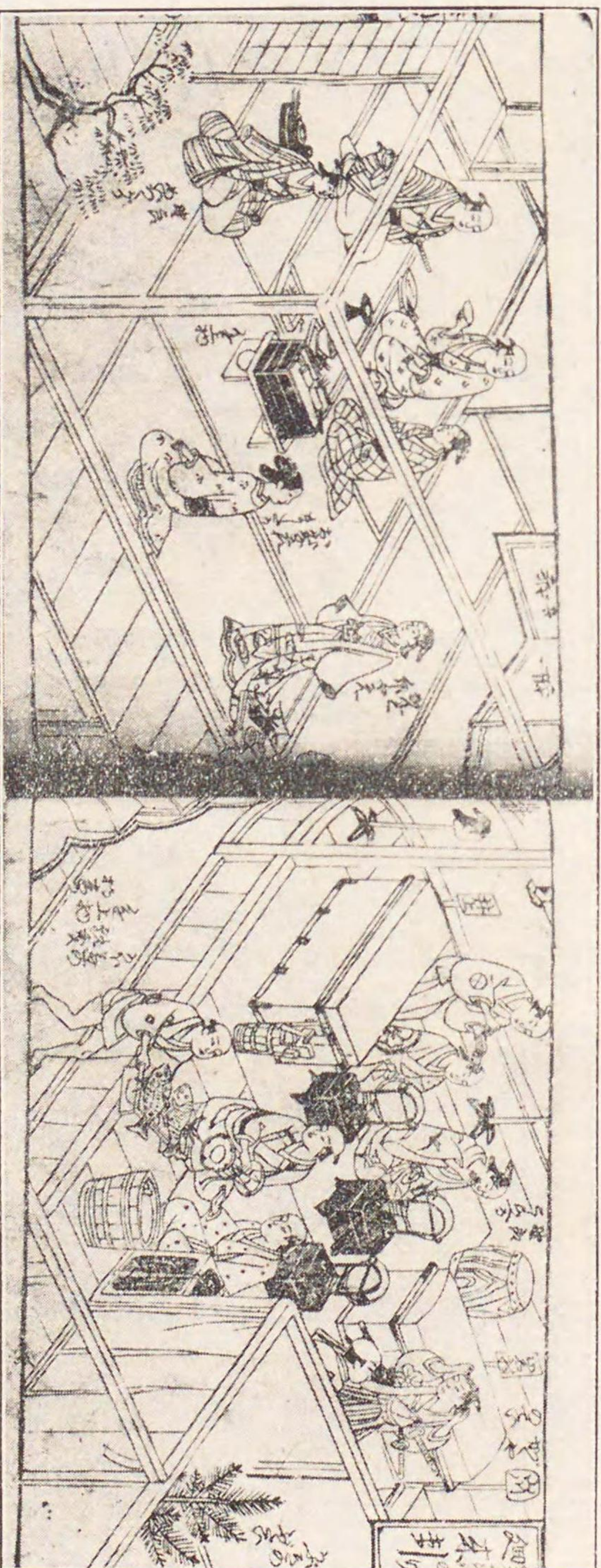
天狗堂轉蓬撰 京都 正徳六年刊 五卷五册

八 色縮緬百人後家

西澤與志(一風)撰 京都 享保三年刊 五卷五册

九 徒然時勢粧

錦文流撰 大坂 享保六年刊 七卷六册



圖插三卷 鏡證内白野 圖五第

第三 自笑及其積並其流派

1、自笑及其積

一 寛濶平家物語

八文字屋自笑撰 京都 寶永七年刊 六卷六册

二 野白内證鑑

八文字屋自笑撰 京都 寶永七年刊 五卷五册

三 風流曲二味線

八文字屋自笑撰 京都 寶永七年刊 六卷六册

四 傾城禁短氣

八文字屋自笑撰 江戸 寶永八年、明和二年刊 初編六卷、次編五卷、三編五卷、十二册

五 傾城情の手枕(禁短氣後の卷)

第三 自笑及其積並其流派

第三 自笑及其積並其流派

江島屋其積撰 江戸 寛保四年刊 五卷五册

六 西海太平記

八文字屋自笑撰 正徳三年刊 五卷一册

七 百姓盛衰記

八文字屋自笑撰 京都 正徳三年刊 四卷四册

八 都ひながた

江島屋其積撰 京都 正徳四年刊 三卷三册

正徳三年まで八文字屋本は自笑の撰述なれど、其實は自笑の蔭に隠れて執筆し居りたる其積の作多かりき。
正徳四年に其積が江島屋を興してより其積の名撰述者として現はるゝに至れり。

九 野傾旅葛籠

江島屋其積撰 京都 正徳五年刊 五卷五册

一〇 風流花平家

八文字屋自笑撰 京都 正徳五年刊 五卷五册

二 世間子息氣質

江島屋其積撰 京都 正徳五年刊 五卷五册

三 浮世親仁形氣

江島屋其積、八文字屋自笑共撰 京都 享保元年刊 五卷五册

三 世間娘氣質

江島屋其積撰 京都 享保元年刊 五卷五册

四 和漢遊女容氣

江島屋其積撰 京都 享保二年刊 五卷五册

五 風俗傾性野群談

八文字屋自笑撰 京都 享保二年刊 五卷五册

六 役者色仕組

八文字屋自笑、江島屋其積共撰 京都 享保五年刊 五卷五册

七 出世握虎昔物語

第三 自笑及其積並其流派

第三 自笑及其積並其流派

八文字屋自笑、江島屋其積共撰 京都 享保十一年刊 五卷五册

二 世間手代氣質

江島屋其積撰 京都 享保十五年刊 五卷五册

一 風流友三味線

八文字屋自笑、江島屋其積共撰 京都 享保十八年刊 五卷五册

二 渡世身持談義

江島屋其積撰 京都 享保二十年刊 五卷五册

三 兼好一代記

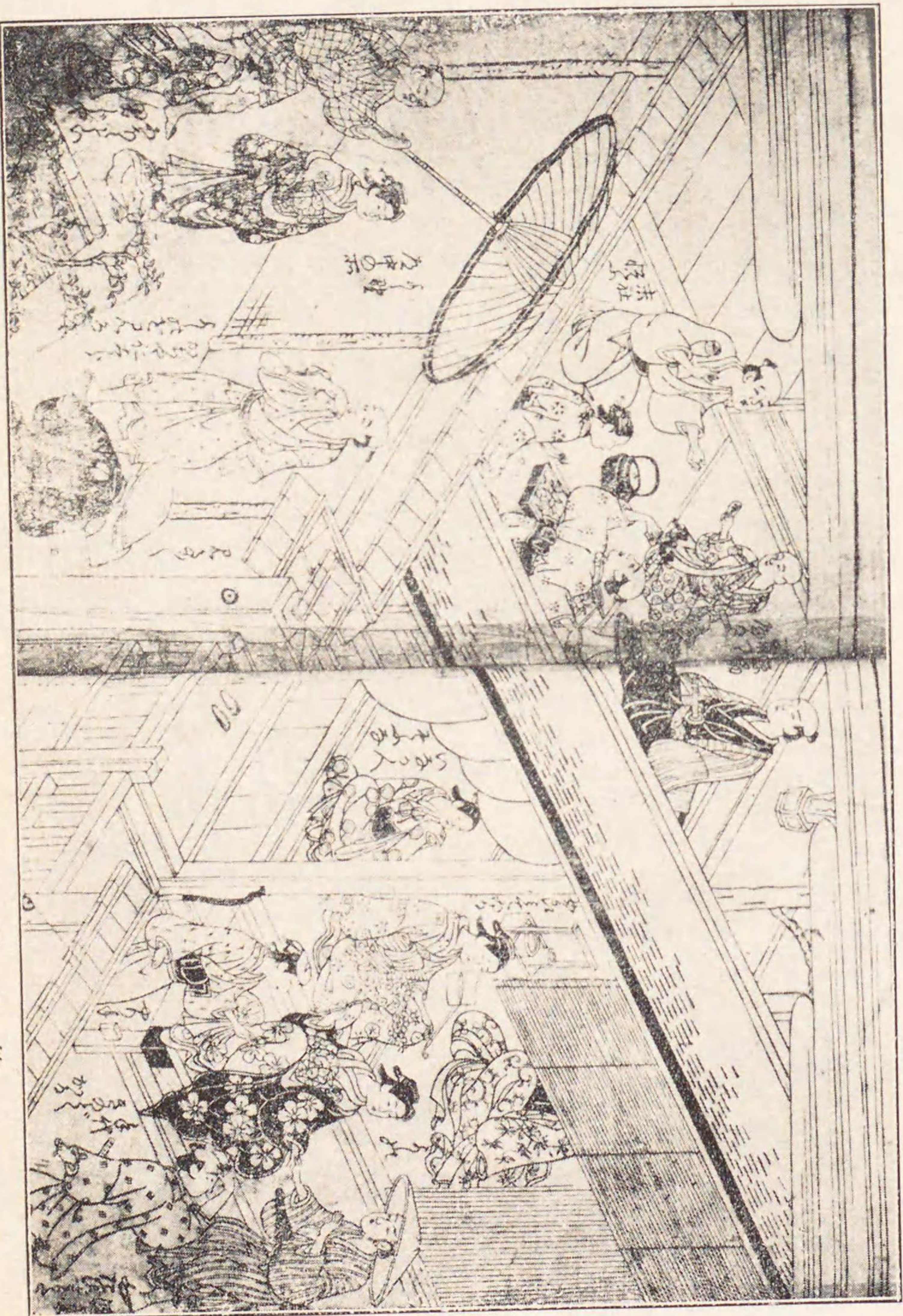
八文字屋自笑、江島屋其積共撰 京都 元文二年刊 五卷五册

三 御伽名題紙衣

江島屋其積撰 京都 元文三年刊 五卷五册

三 其積置土産

江島屋其積撰 大坂 元文三年刊 五卷五册



圖插一卷 衣紙題名伽御 圖六第

四 女非人綴錦

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 大坂 寛保二年刊 五卷五册

三 刈萱二面鏡

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 京都 寛保二年刊 五卷五册

二 其磧諸國物語

江島屋其磧撰 京都 寛保四年刊 五卷五册

一 娘契情太平記

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 京都 寛保四年刊 五卷五册

勸進能舞臺櫻

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 京都 延享三年刊 五卷五册

元 梅若丸一代記

八文字屋自笑、江島屋其磧共撰 大坂 天明八年刊 五卷五册

此書、享保十九年刊行「都鳥妻戀笛」の改題なり。

第三 自笑及其磧並其流派

第三 自笑及其積竝其流派

口、自笑其積派

三 御前獨狂言

西鶯撰 京都 寶永二年刊 五卷五册

三 御伽人形

苗村松軒撰 江戸 寶永二年刊 五卷五册

三 宇津山小蝶物語

森田吟夕撰 京都 寶永三年刊 八卷八册

三 傾城播磨石

京都 寶永四年刊 六卷六册

三 鎌倉比事

月尋堂撰 京都 寶永五年刊 六卷六册

三 美景蒔繪松

市中軒撰 京都 寶永五年刊 五卷五册

三 風流吳竹男

飯山錦裳撰 江戸 寶永五年刊 五卷五册

三 風流加増藏

奥村政信畫 江戸 寶永五年刊 五卷五册

三 傾城難波みやげ

寶永七年刊 五卷五册

三 新好色文枕

醉盲軒宸蛇堂撰 京都 寶永八年刊 五卷五册

三 文武さざれ石

石別子撰 大坂 正徳二年刊 六卷六册

三 近士武道三國志

石別子撰 江戸等 正徳二年刊 十卷十册

三 今川一睡記前編

第三 自笑及其積竝其流派

第三 自笑及其積並其流派

京都 正德三年刊 五卷五册

四 商人職人懷日記

大坂 正德三年刊 五卷五册

四 國家諸士鑑

雲齋散人撰 京都 正德四年刊 六卷六册

四 近代長者鑑

落月堂操庵撰 京都 正德四年刊 五卷五册

四 愛樂毬八代物語

森田吟夕撰 京都 正德五年刊 四卷六册

四 武道繼穗の梅

石川流宣撰並畫 江戸 正徳頃刊 五卷五册

四 忠義太平記大全

吉川盛信畫 京都 享保二年刊 十二卷十二册

四 風流都の辰巳

きし女撰、河島信清畫 京都 享保十二年刊 五卷五册

四 婚禮名護屋吾妻日記

舞閣撰 京都 享保十七年刊 五卷五册

五 夫乞獅子
東なまり 風流返魂香

田中氏撰 大坂 寛保二年刊 五卷五册

五 十二小町曦裳

八文字屋其笑、八文字屋瑞笑共撰 京都 延享五年刊 五卷五册

五 歳徳五葉松

八文字屋其笑、八文字屋瑞笑共撰 京都 寶曆三年刊 五卷五册

五 菜花金夢合

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 京都 寶曆五年刊 五卷五册

五 謠曲百萬車

第三 自笑及其積並其流派

第三 自笑及其積並其流派

十步齋一口撰 京都 寶曆七年刊 五卷五册

五 世間母親容氣

南圭梅嶺撰 京都 寶曆十二年刊 五卷五册

七 萬福富貴自在

八文字屋自笑、江島屋其積共撰 京都 明和二年刊 三卷三册

六 世間妾形氣

上田秋成撰 江戸 明和四年刊 四卷四册

五 略緣記出家形氣

八文字舍自笑撰 京都 明和六年刊 五卷五册

四 一角仙人四季櫻

福隅軒蛙井撰 京都 明和六年刊 五卷五册

三 倭織錦船幕

高古堂主人撰 京都 明和七年刊 五卷五册

三 風流茶人氣質

永井堂龜友撰 京都 明和七年刊 五卷五册

三 當世銀持氣質

永井堂龜友撰 京都 明和七年刊 五卷五册

四 世間化物氣質

增谷大梁、半井金陵共撰 大坂 明和七年刊 五卷五册

五 風流酒吸礮

永井堂龜友撰 京都 明和八年刊 五卷五册

六 赤烏帽子都氣質

永井堂龜友撰 京都 明和九年刊 五卷五册

七 世間姑氣質

永井堂龜友撰 京都 安永二年刊 五卷五册

六 小兒養育氣質

第三 自笑及其積並其流派

第三 自笑及其積竝其流派

永井堂龜友撰 京都 安永二年刊 五卷五册

六 世間旦那氣質

永井堂龜友撰 大坂 安永三年刊 五卷五册

七 本朝墓物語

墨鶴山人撰 京都 安永三年刊 五卷五册

七 世間仲人氣質

永井堂龜友撰 京都 安永五年刊 五卷五册

三 浮世壹分五厘

八文字屋自笑撰 京都 安永五年刊 五卷五册

三 實話東雲鳥

麗白主人撰 京都 安永八年刊 五卷五册

齒 當世宗匠氣質

其鳳撰 大坂 安永十年刊 五卷五册

室 自笑樂日記

八文字屋自笑、八文字屋其笑共撰 京都 寬政七年刊 五卷五册

第三 自笑及其積竝其流派

三一

三〇

第四 赤本類

赤本の稱は元と外装の色より來れるものなれど、後年改装の爲に一見疑はしき本あり。

一 初春のいわひ

菱川師宣畫 延寶六年刊 一册

二 三國寶船始

菱川師宣畫 刊本 一册

三 京ひがし山ばげぎつね

菱川師宣畫 刊本 一册

四 唐人のみかり

菱川師宣畫 刊本 一册

五 ゑはうあそび

刊本 一册

六 したきれ雀

刊本 一册

七 寶ねずみ

天和二年刊 一册

八 四季のゆらい鬼遊

刊本 一册

九 ただ取山の時鳥

刊本 一册

一〇 兎の手柄

刊本 一册

一一 ふんふく茶釜

刊本 一册

一二 福神大ふるまい

第四 赤本類

第四 赤本類

刊本 一册

三 まめまゆ

奥村政信畫 刊本 一册

四 御りやうけんなさい

近藤清春畫 刊本 一册

五 千本左衛門

山本重春畫 刊本 三卷合一册

六 猿蟹合戦

西村重長畫 刊本 一册

七 龜は萬歳

マンチン 刊本 一册

八 めいよの翁

刊本 一册

九 はちかつぎひめ

刊本 二卷合一册

十 新板 富士見西行繪盡

軍法 刊本 三卷合一册

第五 黒本類

黒本の稱も元と外装より起れど、後年改装して其稱呼に合はざるもあり。

一 明石潟朗天草紙

富川房信撰並畫 刊本 三卷合一冊

二 童子持四天王再功

富川房信撰並畫 安永三年刊 三卷三冊

三 大磯虎車墳物語

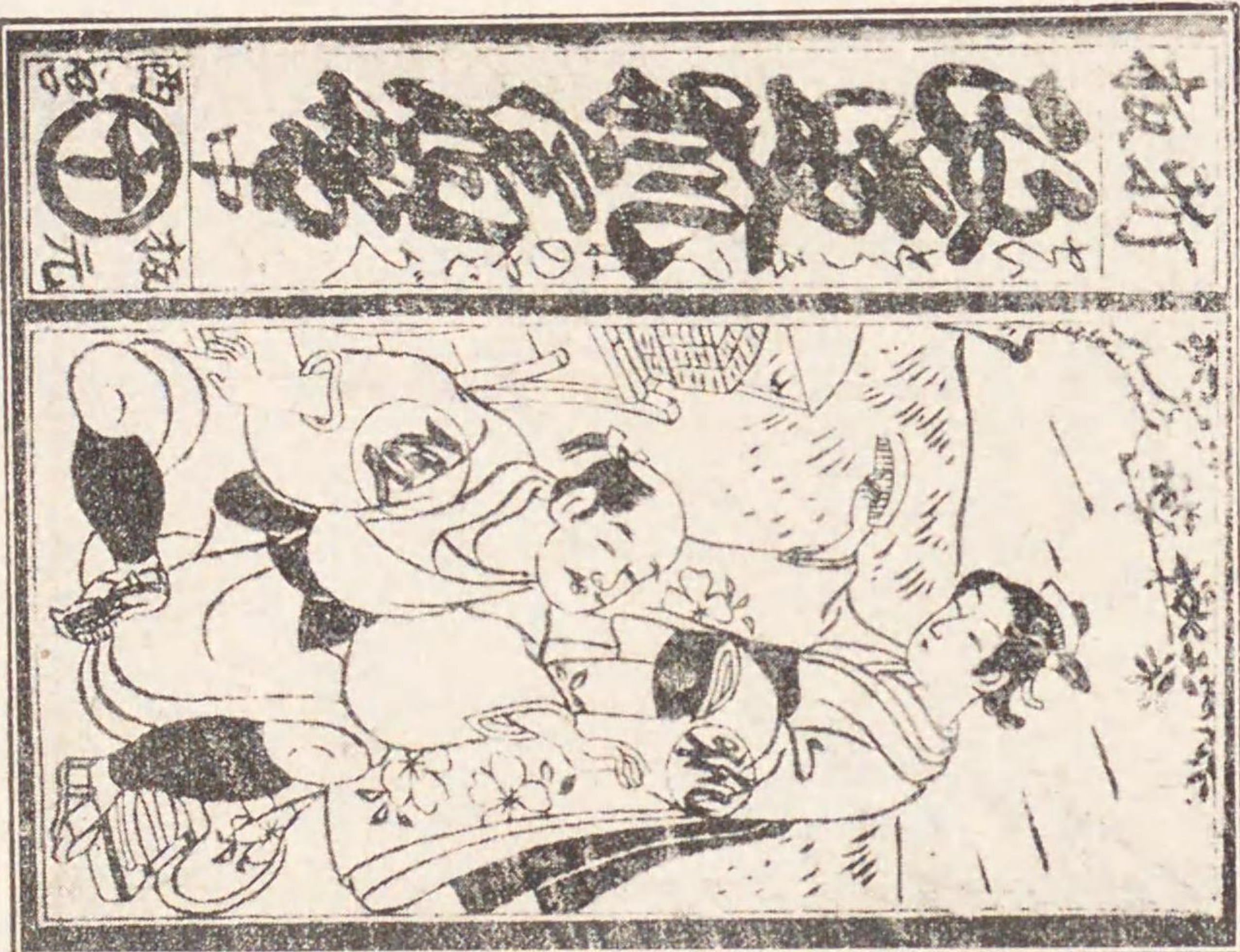
富川房信撰並畫 刊本 二卷合一冊

四 源平はちかづき姫

富川房信撰並畫 刊本 三卷合一冊

五 新板若惠比須吉例之釣初

富川房信撰並畫 刊本 二卷合一冊



題外繪卷下、中 替宿狐道政 圖七第

六 政道狐宿替

鳥居清經撰並畫 刊本 三卷三册

七 双仁フタリ京水染櫻

鳥居清滿撰並畫 刊本 五卷合一册

八 朝日太平記

鳥居清重撰並畫 刊本 三卷合一册

九 朝比奈地獄破

刊本 三卷合一册

一〇 惡魔除米守

刊本 三卷合一册

一一 新田四天王

刊本 三卷合一册

一二 二人與作二人八藏出世駒引錢

第五 黒木類

第五 黒本類

刊本 二卷合一册

三 仁王門

刊本 三卷合一册

四 新田楠知略物語

刊本 三卷合一册

五 歌合昔日尊

刊本 二卷合一册

六 空蟬脱紙子

刊本 三卷合一册

七 薄雪初音文

刊本 三卷合一册

八 浦島出世龜

刊本 三卷合一册

元 山科大將色好

刊本 二卷合一册

二 浮世一盃夢

刊本 二卷合一册

三 新伊勢三郎物見松

刊本 二卷合一册

三 新敵討美女窟

刊本 二卷合一册

三 新貞女戀目雙六

刊本 三卷合一册

第五 黒本類

第六 黄表紙類

一金金先生榮花夢

戀川春町撰並畫 安永四年刊 二卷合一册
黄表紙類中最も古き者の一にして、同時に最も高名なるものに屬す。黄表紙の作家の續出せるは此書の好評に因せりとも謂ふべし。

二 高名太平記

富川房信撰並畫 安永四年刊(?) 三卷合一册

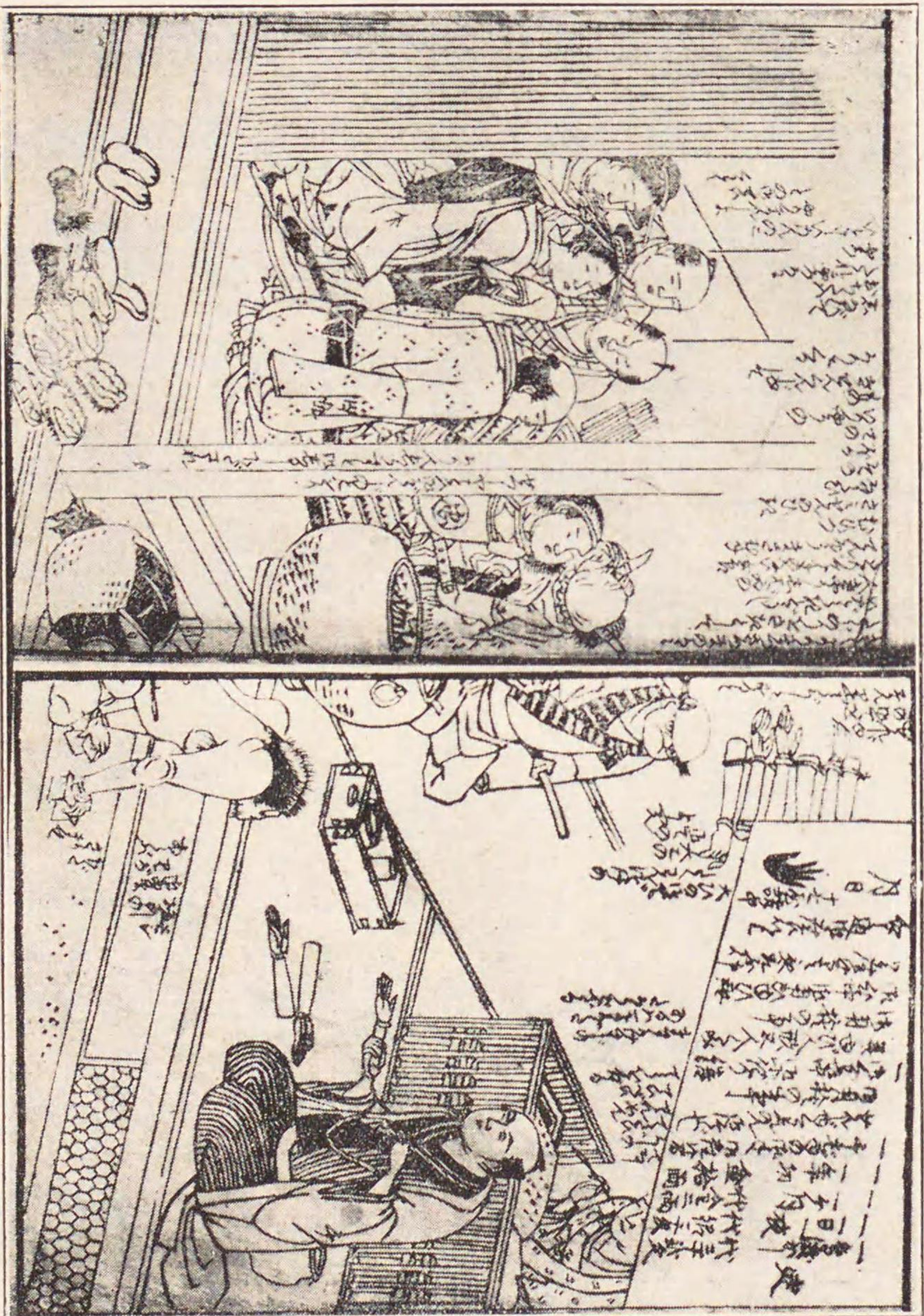
三 大豆之助 稻荷山松茸賣親方

薪葉撰、磯田湖龍齋畫 安永年間刊 三卷合一册

四 通一聲女暫

芝全交撰、北尾重政畫 天明元年刊 三卷合一册

五 縦筒放 唐の噺



本 祿 千 悲 大 圖 八 第

市場通笑撰、鳥居清長畫 天明三年刊 三卷合一册

六 江戸生艶氣樺燒

山東京傳撰竝畫 天明五年刊 三卷合一册

七 順廻能キルナノ子ガラカ子ノナルキ切自根金生木
名代家

唐來參和撰、千代女畫 天明五年刊 三卷合一册

黄表紙の作者が書名に苦心、單に表題によりても興味を牽かんと努めし様、是等の書に著し。然れども
好奇弄曲本書の如きは較少しとす。

八 御手料理 御知而已 大悲千祿本

芝全交撰、北尾政演畫 天明五年刊 一册

九 文武二道萬石通

朋誠堂喜三二撰、行鷹畫 天明八年刊 三卷合一册

一〇 酒 癖管卷太平氣

森羅亭萬象撰、北尾政美畫 天明八年刊 二卷合一册

第六 黄表紙類

二 仙傳延壽反意談

山東京傳撰並畫 寛政元年刊 三卷合一册

三 嘘無箱根先

七珍萬寶撰、歌川豊國畫 寛政元年刊 二卷合一册

三 二十日餘ツカヒハタシテ盡用而二分狂言

大榮山人撰、歌川豊國畫 寛政三年刊 二卷合一册

序文署名に肩書して京傳門人とせり。曲亭馬琴雌伏時代の別號にして此書は其戯作に筆を染めし始なりといふ。

四 壬生狂言ナホシテヨム直讀見臺萩

唐本寢言 芝全交撰、北尾柳郊畫 寛政三年刊 三卷合一册

五 十四傾城腹之内

芝全交撰 寛政五年刊 三卷合一册

六 榮花夢 後日話 金金先生造化夢

山東京傳撰 寛政六年刊 三卷合一册

七 安倍清兵衛一代八卦

曲亭馬琴撰、北尾重政畫 寛政九年刊 三卷合一册

八 作者根元江戸錦

櫻川慈悲成撰、歌川豊國畫 寛政十一年刊 二卷合一册

九 夫南木キヤン俠太平記向鉢卷 是嘘氣

式亭三馬撰、北尾重政畫 寛政十一年刊 三卷合一册
相傳ふ著者此草紙を著して町火消(薦の者)の怒を買ひしが、僅に和談によりて住宅破壊の難を免るゝを得たり。然も三馬の名は此事件によりて一時に喧傳せらるゝに至れりと。

三 諸色吞込多靈寶緣起 附著者自筆稿本 買帳

山東京傳撰、北尾重政畫 享和二年刊 三卷合一册
京傳、北尾政演の名を以て當時の浮世繪界に雄飛せるは世の知る所なり。此書の自筆稿本中の挿圖の輕妙なる往々北尾重政の刻畫に優越せんとするを見る。覽者稿刻兩本を比讐して可なり。

三 又燒直 鉢冠姫 稗史億說年代記

第六 黄表紙類

第六 黄表紙類

式亭三馬撰並畫 享和二年刊 三卷合一册

三 彼は時花曲^{レント} 此は奉納額 封鎖心鑑

式亭三馬撰、歌川豊廣畫 享和二年刊 三卷合一册

三 仇敵碓打手

南柚笑楚滿人撰、歌川豊廣畫 享和三年刊 三卷合一册

四 敵討二人長兵衛

曲亭馬琴撰、北尾重政畫 享和四年刊 三卷合一册

五 作者胎内十月圖 附著者自筆稿本

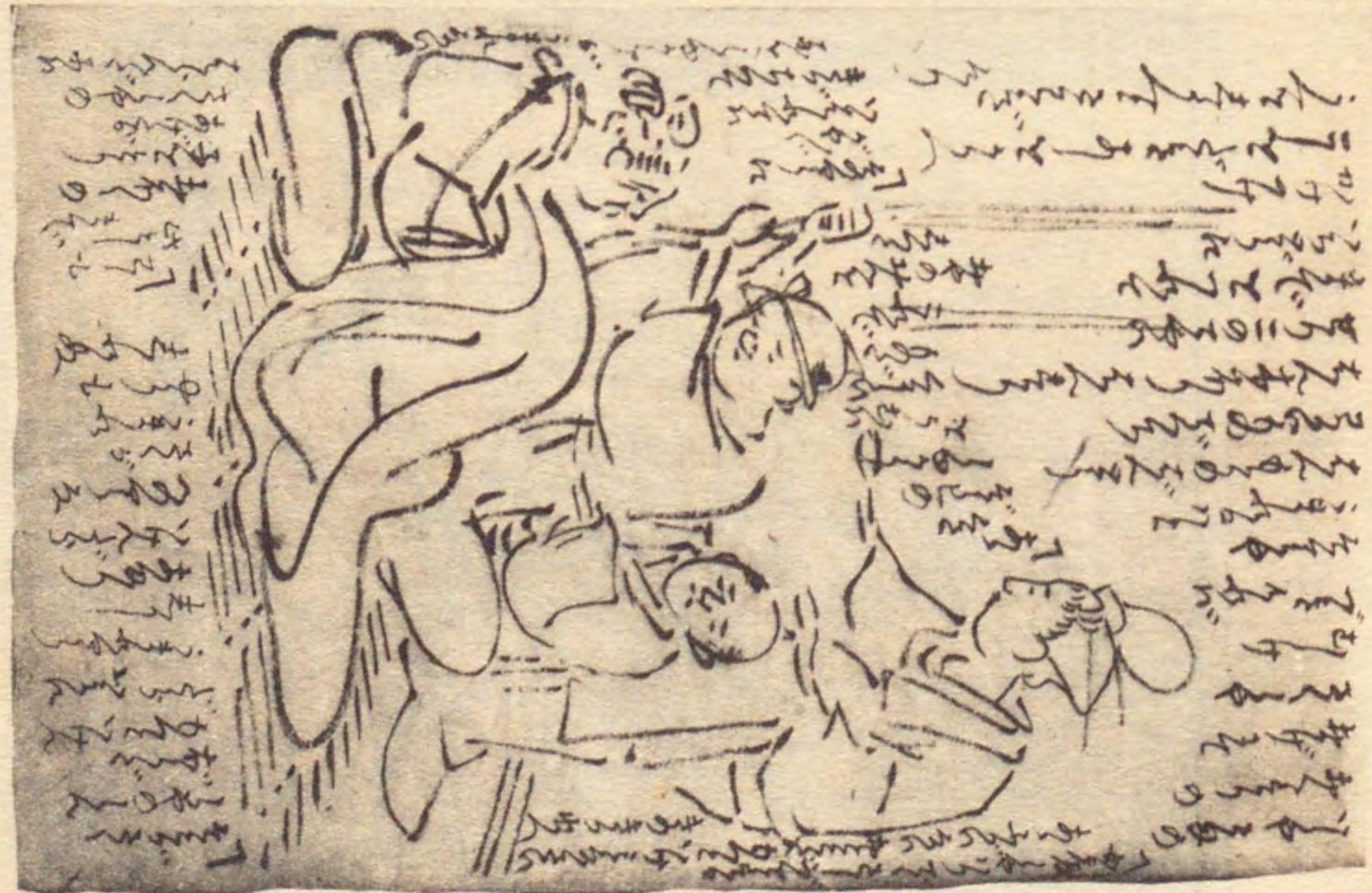
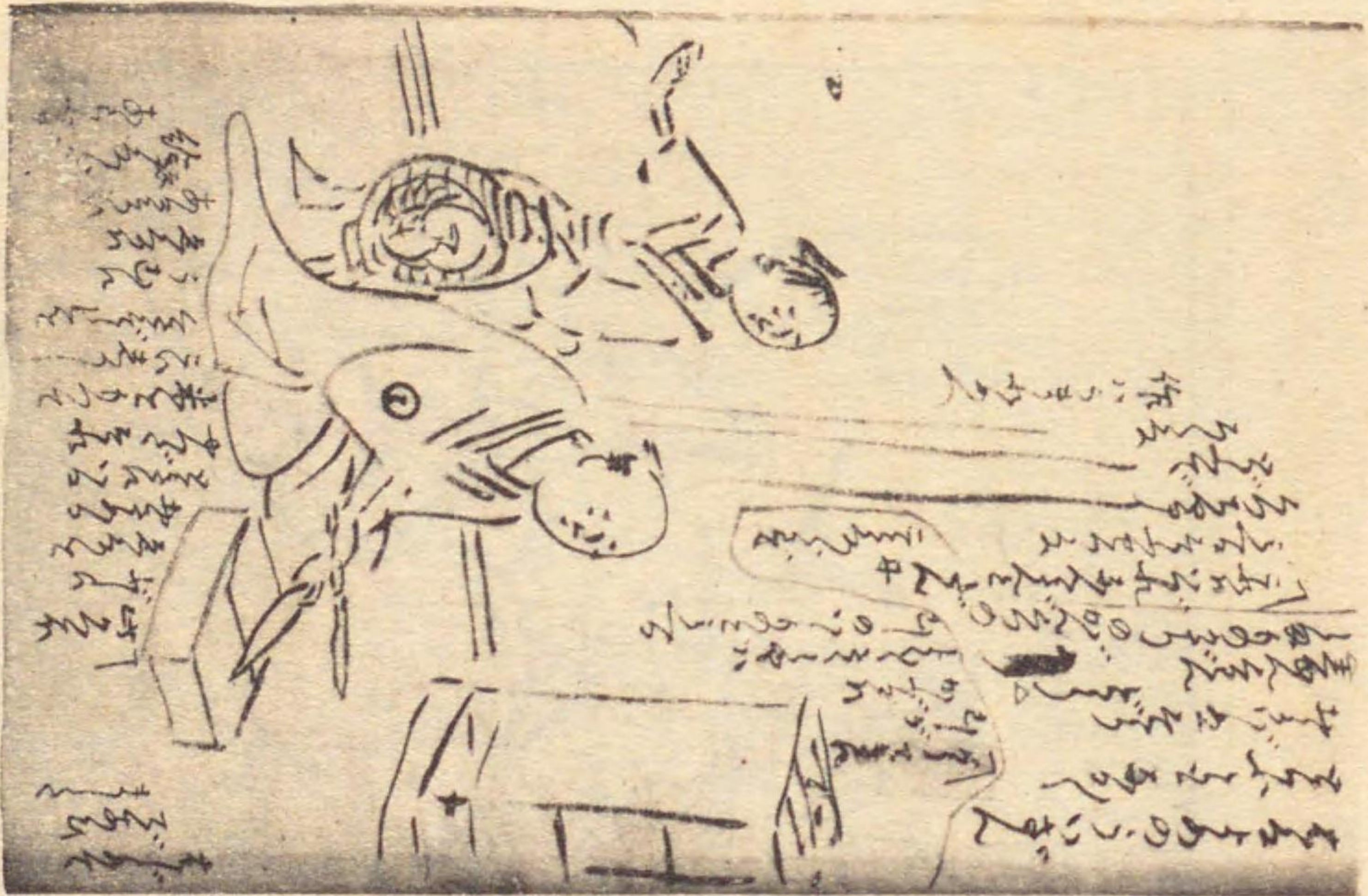
山東京傳撰、北尾重政畫 文化元年刊 三卷合一册

六 淺草觀音 利益仇討 雷太郎強惡物語 前編

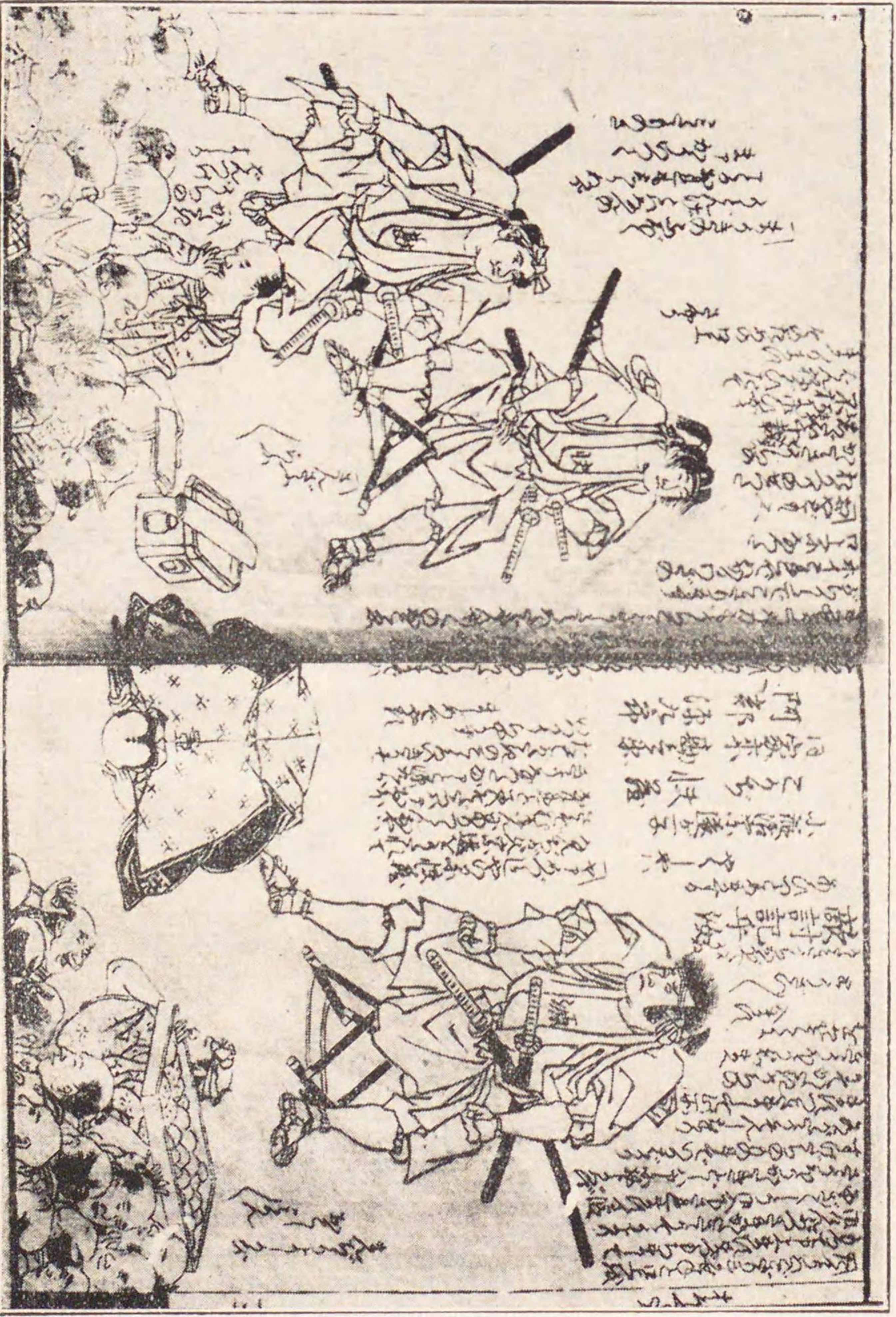
式亭三馬撰、歌川豊國畫 文化三年刊 五卷合一册

七 復讐狼河原^{オイヤ}

山東京傳撰、歌川豊國畫 文化三年刊 三卷合一册



本稿筆自傳京東山者著 圖月十内胎著作 圖九第



第十圖 敵討記平汝

六 敵討柳四郎兵衛

南柚笑楚滿人撰、歌川豊國畫 文化三年刊 六卷合一册

元 敵討記乎汝

オボエタカウヌ

六樹園(石川雅望)撰、北尾重政畫 文化五年刊 三卷合一册

六樹園の戯作少からずと雖も黄表紙の作は唯此一部とす。

三 桑名屋徳藏廻船噺

十返舎一九撰、歌川豊廣畫 文化五年刊 六卷合一册

三 絞染五郎強勢談

山東京傳撰、歌川豊國畫 文化五年刊 五卷合一册

黄表紙が漸く滑稽洒落の本色を失ひて復讐、御家騒動等を題材とし、遂に内容外形ともに草雙紙に轉ぜんとす。本書の如きは其過渡期を表象するもの、一なり。

三 式亭三馬腹之内

式亭三馬撰、自筆稿本 三卷合一册

第六 黄表紙類

第六 黄表紙類

三 繫升三升繫

櫻川杜芳撰 自筆稿本 一册

第七 讀本類

1. 普通本

一 坂東忠義傳

三木成久撰、北尾重政畫 江戸 安永四年刊 十卷十册

二 童唄古實今物語

清涼井撰 江戸 安永八年刊 五卷五册

三 女水滸傳

伊丹椿園撰 京都 天明三年刊 四卷四册

四 袈裟物語

一物子撰 大坂 寛政九年刊 五卷五册

五 忠臣水滸傳

第七 讀本類

山東京傳撰、北尾重政畫 江戸 寛政十一、享和元年刊 十卷十册
 この書京傳が讀本として出したる始の一書なり。この頃水滸傳大に行はれたれば忠臣藏を水滸傳に擬して作りしものなり。

六 繪本二島英勇記

平賀梅雪撰、速水春曉齋畫 大坂 享和三年刊(後刷本) 十卷十册
 この書一名「繪本宮本武勇傳」といふ。

七 繪本敵討待山話

立川焉馬撰、歌川豊國畫 江戸 享和四年刊 五卷六册

八 優曇華物語

山東京傳撰、喜多武清畫 江戸 文化元年刊 五卷七册

この書才子綱千較二郎と佳人渥美兒とが親の仇を討ちたる話なり。未だ支那小説の影響を脱せず、挿圖故事等支那の出典を取れること多し。畫者の浮世繪派ならざるも此書の一特色ならん。

九 復讐話浪速烏梅

十返舎一九撰 江戸 文化二年刊 三卷三册

以二頃中本ノ部 五七頁 五〇、次し 移スベシ



圖插四卷 語物華曇優 圖一十第

一〇

復讐ワカエノハト 稚枝鳩
奇談

曲亭馬琴撰、歌川豊國畫 大坂 文化二年刊(嘉永元年後刷本) 五卷五册

二

墨田川梅柳新書

曲亭馬琴撰 大坂、江戸 文化三年刊 六卷六册

この書近松の雙生隅田川より換骨脱體せるものにて、材料は梅若丸傳説なり。

三

梅之與四
兵衛物語 梅花氷裂

山東京傳撰、歌川豊國畫 江戸 文化四年刊 三卷三册

この書唐琴浦右衛門が女敵討に關する因果話を骨子としたる所謂お家騷動譚の一なり。

三

碗久松山
柳巷話説 括頭巾縮緬帔衣

曲亭馬琴撰、歌川豊國畫 江戸 文化四年刊 三卷一册

この書後に版を改めて「碗久松山物語」となし、繪をも改めて出せり。

四

阿波之鳴門

柳亭種彦撰、玉豕癡夫校、葛飾北齋畫 京都 文化四年刊(?) 五卷五册

三 俊寛僧都島物語

曲亭馬琴撰、歌川豐廣畫 大坂 文化五年刊(後刷本) 八卷十册
歴史的英雄の外傳にして、馬琴が史上不滿の境遇に在る人々の爲に其不平を洩さんとしたるものと云ふ。

二六 復讐古實獨搖新話

熟睡亭主人撰、忍持摺校、榮松齋長喜畫 江戸、大坂 文化五年刊 五卷六册

二七 繪本金毘羅神靈記

速水恒章撰、法橋中和畫 京都(?) 文化五年刊 十卷十册
この書は「龜山譚」の改題再刻なり。

二八 三七全傳南柯夢及後記

曲亭馬琴撰、葛飾北齋畫 江戸 文化五、九年刊 十四卷十七册
この書は淨瑠璃に基きて作れるもの、前編は三勝半七、後記はお花半七の話なり。

二九 椿説弓張月

曲亭馬琴撰、葛飾北齋畫 江戸 文化六年刊 三十卷三十册
この書爲朝一生の事績の敘述詳細を極め、讀本中の白眉と稱せられ、大に世上にもてはやされたり。蓋

し馬琴三大作の一に値るべし。

三〇 忠兵衛梅川古乃花雙紙赤繩奇縁傳

小枝繁撰 江戸 文化六年刊 三卷四册

三一 泉親衡物語

福内鬼外(二世)撰、北尾紅翠齋畫 江戸 文化六年刊 五卷五册

三二 唐金藻右衛門金花夕映

梅暮里谷峨撰、閑々樓北嵩畫 江戸 文化六年刊 五卷五册

三三 鶴岡矢筈大紋(題簽、繪本鎌倉新話)

手塚兎月撰、西村中和畫 大坂 文化六年刊 六卷六册

三四 夢想兵衛胡蝶物語

曲亭馬琴撰、歌川豐廣畫 江戸 文化七年刊 九卷合二册
寓意小説として作者の名をなしたるものなり。

三五 昔語質屋庫初篇

曲亭馬琴撰、勝川春亭畫 大坂 文化七年刊 五卷五册
稻妻表紙後編本朝醉菩提

山東京傳撰、歌川豐國畫 江戸 文化七年刊 八卷十二册
文化三年「昔語稻妻表紙」を出して大に行はれたるより、書肆の需に従ひてこの編を作れり。法華經の二
十八卷になぞらへて經文の句などを用ぬ、彼の作に例少き七五調を用ぬ、苦心慘澹の作なりと謂はる。

雙蛺蝶白糸冊子

芍藥亭長根撰、葛飾北齋畫 江戸等 文化七年刊 五卷五册

加之久全傳香籠草

梅暮里谷峨撰、歌川豐國、同國房畫 江戸 文化八年刊 六卷六册

絲櫻春蝶奇縁

曲亭馬琴撰、歌川豊清畫 江戸 文化九年刊 八卷十册

美濃舊衣八丈綺談

曲亭馬琴撰、嵩蘭齋(重宣)畫 大坂 文化十一年刊 五卷六册
この書讀本の中因果を解釋せるもの、好標本なり。

南總里見八犬傳 附著者自筆稿本(第九輯卷之三十八)

曲亭馬琴撰、柳川重信等畫 江戸 文化十一至天保十三年刊 百六卷四十册
この書約二十八年を閲して完成せる馬琴一生の大作にして、徳川時代文學の一偉觀たり。執筆中明を失
ひ完結に苦辛せることは跋文に詳かなり。

皿皿郷談

曲亭馬琴撰、葛飾戴斗畫 江戸 文化十二年刊 五卷六册

梅が枝誰が袖物語

桂中樓白瑛撰並畫 京都等 文化十四年刊 六卷六册

朝夷巡島記全傳

曲亭馬琴撰、松亭金水補、歌川豊廣等畫 江戸 文化十四至安政五年刊 三十九卷四十册
この書馬琴が晩年の作にかゝり、其思想も文詞も共に熟練したる時の筆にして、世に八犬傳と併せ稱し
て翁の二大奇書とす。

星月夜顯晦録

高井蘭山撰、蹄齋北馬畫 大坂 文化年間刊 三十卷十册

三 小櫻姫風月奇觀

山東京山、櫟亭琴魚撰、北明樓戴儀等畫 江戸 文化年間刊 十二卷十二册

三 小野篁八十島かげ

是水叟菊亮撰、速水春曉齋畫 大坂等 文政二年刊 八卷十册

三 朧月夜戀香繡史(題簽、蝶夢花野曙)

柳浪陳人撰、窪田俊滿畫 大坂 文政三年刊 五卷六册

三 道成寺鐘魔記

小枝繁撰、歌川國直畫 大坂 文政四年刊 五卷六册

四 秋夕霧籬物語奇觀

玉川亭調布撰、南仙笑楚滿人校、溪齋英泉畫 江戸 文政七年刊 六卷六册

四 千代物語

東里山人撰、溪齋英泉畫 江戸 文政十年刊 十卷十册

三 月霄鄙物語

北川眞顔、桃華園三千丸共撰、柳々居辰齋、柳齋重春畫 江戸等 文政十一年刊 九卷十册

三 皎月大和物語菊花

森川保之撰並畫、東籬亭菊人訂 京都等 文政十一年刊 五卷五册

四 近世說美少年錄

曲亭馬琴撰、歌川豊國等畫 江戸 文政十一至天保五年刊 三十卷合九册
この書弘化二年、其第十一卷より「新局玉石童子訓」と題せり。

四 碗久松山柳巷話説(題簽、碗久松山物語)

曲亭馬琴撰、歌川國芳畫 江戸等 文化五年刊(文政十四年後刷本) 五卷五册

四 俊傑神稻水滸傳

知足館松旭等撰、千錦亭富雪畫 大坂 文政十一至明治十二年刊 四十卷四十册

四 開卷驚奇俠客傳

曲亭馬琴撰、溪齋英泉等畫 大坂 天保元至三年刊 二十五卷十六册

この書第四集までは馬琴の作なるが、結局に至らずして物故せしを以て、第五集以下は浪華の蒜亭翁篇を續けて刊行せり。

四 大内興隆十杉傳

爲永春水撰、松亭金水校、歌川國丸等畫 大坂等 天保二、三年刊(?) 二十五卷五册

四 近世美談大川仁政錄

松亭金水撰、歌川芳梅畫 大坂 安政元至四年刊 二十卷二十册

吾 雨月物語

上田秋成撰 大坂 明和五年刊 五卷三册

この書讀本の先駆をなせるものにして、その擬古文體なると全篇を通じて幽靈怪異の取扱はるゝは大に特色とすべし。

五 西山物語

建部綾足撰 大坂 明和五年刊(文化十年後刷本) 三卷三册

五 本朝水滸傳(一名、芳野物語)

建部綾足撰 江戸等 安永二年刊 十卷九册
この書江戸に出でたる讀本の濫觴といはる。特に後に續出する水滸傳物の備をなせるものなるべし。

五 國字鶴物語

芍藥亭長根撰、葛飾北齋畫 江戸 文化五年刊 五卷五册

五 近江縣物語

石川雅望撰、北尾重政畫 文化五年刊 五卷五册

五 梅がえ物語

石川雅望撰 江戸 文化七年刊 一册

口、中本

五 小説比翼文

曲亭馬琴撰、葛飾北齋畫 江戸 享和四年刊 二卷二册

五 敵討誰也行燈

曲亭馬琴撰、歌川豊國畫 江戸 文化三年刊 二卷二册

天 復讐鳴立澤

感和亭鬼武撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化三年刊 二卷二册

瓦 風聲夜話翁丸物語

十返舎一九撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化四年刊 二卷二册

古 身延山甲州緱澤報讐

利生記 十返舎一九撰 江戸 文化四年刊 二卷二册

六 情花奇語奴の小まん

柳亭種彦撰、優々齋桃川畫 江戸 文化四年刊 二卷二册

三 盆石皿山記

曲亭馬琴撰、歌川豊廣畫 江戸 文化三、四年刊 四卷四册

三 荊萱後傳玉櫛笥

曲亭馬琴撰、葛飾北齋畫 江戸 文化三年刊(?) 三卷合一册

六 復讐快事驛路春鈴菜物語前編

附著者琴驢自筆稿本(前編下之卷)

節亭琴驢撰、歌川豊廣、俵屋宗理畫 文化五年刊 二卷二册

この書の作者節亭琴驢は馬琴の別號なるべし。

空 孝子美談白鷺塚

十返舎一九撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

突 復讐奇談七里濱

一溪庵主人撰、歌川豊廣畫 江戸 文化五年刊 三卷三册

宀 觀音利生孤館記傳敵討枕石夜話

曲亭馬琴撰、歌川豊廣畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

突 天羽衣

石川雅望撰、江南畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

充 復讐奇談東雲草紙

千代春道撰、勝川春亭畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

七〇 復讐十三七月

カタクウチハツカノツキ
神屋蓬洲撰並畫 江戸 文化五年刊 三卷三册
この書初名を「小萬紅」といへり。

七二 函嶺復讐談

感和亭鬼武撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

七三 敵討猫魔屋敷

振鷺亭撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化五年刊 一册

七四 杣物語僊家花

南柚笑楚滿人撰、歌川豊國、同國貞畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

七五 巷談坡隄庵

曲亭馬琴撰、歌川豊廣畫 江戸 文化五年刊 三卷三册

七六 報寇文七髻結緒

カタキウチ モトユイ
感和亭鬼武撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化五年刊 二卷二册

七六 復仇女實語教

十返舎一九撰、蹄齋北馬畫 江戸 文化六年刊 二卷二册

七七 三都妖婦傳

笠亭仙果撰、歌川豊國畫 江戸 嘉永五、六、安政三年刊 三卷三册

ハ、軍談類

七八 繪本大閣記

岡田玉山撰並畫 大坂 享和二年刊 八十四卷八十四册

七九 繪本和田軍記

速水春曉齋撰、柳齋重春畫 江戸 天保五年刊 十二卷十二册

八〇 扶桑皇統記圖會

好華堂野亭撰、柳齋重春畫 大坂 嘉永年間刊 十三卷十三册

八一 繪本豊臣勳功記

八功舎徳水撰、歌川國芳畫 江戸 文久年間刊 九十卷九十册

二 通俗醒世恒言

逆旅主人撰 京都等 寛政二年刊 四卷五册

三 繪本漢楚軍談

曲亭馬琴撰、北尾重政畫 江戸 享和四、文化元、三年刊 十卷十册
この書續編六卷あり天保三年完結せり。

四 新編水滸畫傳

曲亭馬琴、高井蘭山共撰、葛飾北齋畫 大坂 文化三至天保十一年刊 九十卷九十册
この書支那小説水滸傳を和譯したるものにして、當時和譯の水滸傳は唯本書あるのみ。その第二編卷之十一より高井蘭山譯出せり。

五 繪本國姓爺忠義傳

石田玉山撰並畫 大坂 文化及天保年間刊 二十三卷二十三册

六 繪本通俗三國志

池田東籬亭撰、葛飾載斗畫 大坂等 天保七至十二年刊 七十五卷七十五册

第八 洒落本

一 雪月花

可亭撰 大坂 寶曆七年刊 一册

この書「聖遊廓」の別名ありて洒落本の始祖と稱せらる。大坂道頓堀の遊里を寫せるものなり。寶曆十三年にはその續編「列仙傳」の出版あり。

二 遊子方言

多田一樂撰 江戸 明和年間刊 一册

この書出で、大に行はれ江戸洒落本の備を作れりと謂はる。其題名は漢の「揚子方言」よりもちりたるなり。爾後洒落本には同種の命名少からず。「契國策」「郭中掃除」「格子戯語」の類皆然り。

三 辰巳の園

夢中散人寐言撰 江戸 安永二年刊 一册

この書明和七年版の再版にして「遊子方言」が吉原のことを書けるに對し、深川のことを寫せり。是れ深川遊廓のことを寫したる始にして、卷末に深川の通言を集めたり。

四 甲驛新話

風鈴山人撰 江戸 安永四年刊 一册

風鈴山人は四方山人の別號にして即ち大田蜀山のことなり。

五 すなはらひ

南鐐堂一片撰 江戸 安永四年刊 一册

この書深川蒟蒻島のことを數項に分ちて書けり。

六 今様
張込 風俗問答

劉道醉撰 江戸 安永五年刊 一册

七 當世さ様候

無物庵別世界撰 安永五年刊 一册

八 當世爰かしこ

未無事庵春江撰、素云畫 江戸 安永五年刊 一册

九 契國策

華原無名子撰 江戸(?) 安永五年刊 一册

一〇 郭中掃除雜編

福輪道人撰 江戸 安永六年刊 一册

一一 一事千金

田螺金魚撰 江戸 安永七年刊 一册

一二 當世とらの巻

田螺金魚撰 江戸 安永七年刊 一册

この書一名「契情買虎の巻」といひ、普通の洒落本と異り、後の人情本に類せり。當時頗る行はれたるものにて、後年之を學ぶ者多くなれり。

一三 伊賀越増補合羽之龍

蓬萊山人歸橋撰 江戸 安永八年刊 一册

作者歸橋は安永天明頃に於ける洒落本界の巨擘と稱せられし人なり。

一四 記原情話

行過撰 江戸 安永十年 一册

一五 眞女意題

森羅萬象撰 江戸 安永十年刊 一册
この書森羅萬象(本草家森島中良)が洒落本の初作にして、芝神明臺といふ意にて、芝神明社内の茶屋な
どのことを叙するに滑稽の筆致を以てし、後の滑稽本を誘引せり。

一六 世界の幕なし

本膳坪平撰 江戸 天明二年刊 一册

一七 通神
孔釋三教色

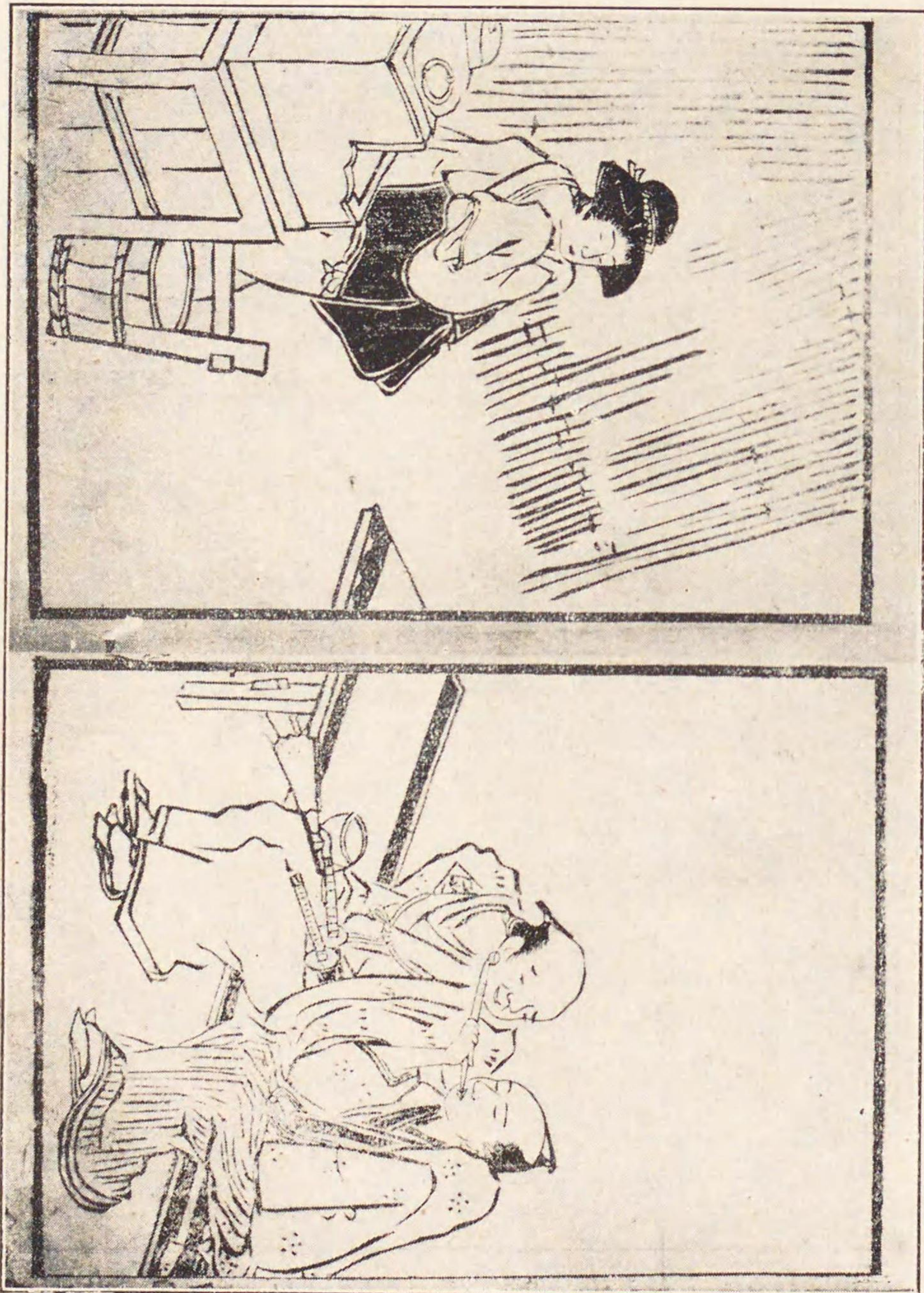
唐來參和撰、喜多川歌麿畫 天明三年刊 一册
この書參和の傑作にして其洒落本の初作、大に行はれて三版を重ねたり。神儒佛を遊興世界に附會し、
忠臣講釋にもちり、更に空海の三教指歸にもちりたるなり。

一八 愚人贅漢居續借金^{キツ、カリガ子}

蓬萊山人歸橋撰 江戸 天明三年刊 一册

一九 濟都洒美選

志水燕十撰 江戸 天明三年刊 一册



圖插 題意 女眞 圖二十第

二 二日酔大入觴

森羅萬象撰、北尾政演畫 天明四年刊 一册

三 甲驛角雞卵

妓談

月亭可笑撰 江戸 天明四年刊 一册

三 和唐珍解

唐來參和撰 江戸 天明五年刊 一册

この書國姓爺合戦を假りて長崎のことを寫し、當時動もすれば唐音を用ゐる風ありしより想を構へたり。洒落本と云へども寧ろ滑稽諧謔を旨とせり。

三 妓者呼子鳥

田螺金魚撰 天明六年刊 一册

この書天明七年再刻改題して「妓者虎の巻」といふ。

三 遊里雲談故契三娼

遊里

山東京傳撰 江戸 天明七年刊 一册

この書また「雲月花」「三教色」などと同じく三人談話の趣向にて、吉原、深川、品川の遊女たりし三女の

物語を筋として、作者獨特の通を示せるものなり。

三 吉原楊枝

山東京傳撰 江戸 天明八年刊 一册

三 夜半の茶漬

山東京傳撰 江戸 天明八年刊 一册

三 一向不通替善運

甘露庵蜂滿撰 江戸 天明八年刊 一册

三 風俗廻しまくら

驛路 山手山人撰 江戸 天明九年刊 一册

三 艶語 雜話 志羅川夜船

山東京傳撰 江戸 天明九年刊 一册

三 通氣粹語傳上編

山東京傳撰 江戸 天明九年刊 一册

この書淺草あたりに舞臺を取り、水滸傳を世話にくだきて通人を描きしものにして、京傳の水滸傳物の始なり。

三 假里擇中洲之華美

内新好撰 天明九年刊 一册

三 自惚鏡

振鷺亭撰 江戸 天明九年刊 一册

三 廓大帳

山東京傳撰並畫 江戸 刊本 一册

三 太平樂卷物

天竺老人撰、峯周畫 江戸 刊本 一册

三 酒徒雅

衛いじ撰 刊本 一册

三 船窓笑話

刊本 一册

三 薄紅葉

流浮世撰 江戸 寛政元年刊 一册

三 傾城買四十八手

山東京傳撰並畫 寛政二年刊 一册

三 洞房
妓談繁千話

山東京傳撰並畫 寛政二年刊 一册

四 格子戯語

振鷺亭撰 江戸 寛政二年刊 一册

四 文選臥坐

佐保川狂示等撰 江戸 寛政二年刊 一册

三 田舎談義

竹塚東子撰 江戸 寛政二年刊 一册

三 大磯
風俗仕懸文庫

山東京傳撰並畫 江戸 寛政三年刊 一册

この書「娼妓絹飾」「青樓畫の世界錦の裏」と共に教訓讀本と稱して賣出せしに忽ち發覺し、作者、版元等夫々罰せられ、右三書は勿論從來版行の洒落本悉く絶版を命ぜらるゝに至れり。

四 手段詰物娼妓絹飾

山東京傳撰 江戸 寛政三年刊 一册

三 青樓畫之世界錦之裏

山東京傳撰並畫 江戸 寛政三年刊 一册

此二書は京傳の洒落本として殊に著名のものとする。

四 南品傀儡

青海舎柳枝撰 江戸 寛政三年刊 一册

四 廓通遊子

青松亭藍江撰 江戸 寛政九年刊 一册

四 傾城買二筋道

梅暮里谷峨撰 江戸 寛政十年刊 一册

谷峨の戯作界に於ける聲名此書によりて定まれりと傳ふ。但從來の洒落本よりも後年の人情本に傾けるものなり。

四

手管
早引廓節要

樂亭馬笑撰、式亭三馬補 江戸 寛政十年刊 一册

五

石場
妙談辰巳婦言

式亭三馬撰 寛政十年刊 一册

この書三馬の傑作にして遊女が輕薄にして表裏手をかへすが如き手段を弄する状態を描寫し、亦よく三馬の皮肉性を現せり。

五

辰巳婦言
後編船頭深話

式亭三馬撰 江戸 文化二年刊(?) 一册

五

辰巳婦言
第三編船頭部屋

式亭三馬撰、春龍畫 刊本 二卷二册

洒落本にして再三編繼續せるもの、始にして、洒落本の本色漸く失はれんとするを見るべし。

五

傾城買談客物語

五

深泉
遊子仲街艶談

式亭三馬撰 江戸 寛政十一年刊 一册

戲家山人撰、雪華畫 寛政十一年刊 一册

五

品川楊枝

芝晉交撰 江戸 寛政十一年刊 一册

五

大磯
新話風俗通

松風亭如琴撰 江戸(?) 寛政十二年刊 一册

五

青樓
夜話色講釋

十返舎一九撰 江戸 寛政十三年刊 一册

一九の洒落本の作は滑稽餘りありて情熱に乏しく、多作なれども不評の傾あり。蓋し此島の人ならざるを見る。

五

假廓
南渚比翼紫

宇田樂庵撰 江戸 寛政十三年刊 一册

五 五甲 任俠 甲子夜話

梅暮里谷峨撰 江戸 享和元年刊 一册

六 甲子夜話^{アイカイシ} 編 姬意忌思

梅暮里谷峨撰、長喜畫 江戸 享和二年刊 一册

七 拵笑 嘉和多里 妓談

擔柴樵夫撰 江戸 享和元年刊 一册

八 夢之盜汗

梅暮里谷峨撰 江戸 享和元年刊 一册

九 夢汗 後篇 妓情返夢解

梅暮里谷峨撰 江戸 享和二年刊 一册

十 魂膽胡蝶枕

著者樂齋廣長撰、北溪畫 享和二年刊 一册

十一 起承轉合

十返舎一九撰並畫 江戸 享和二年刊 一册

この書三馬の「辰巳婦言」の如く、洒落本ながら一編にて終らず、二編を續けたり。續物の傾向此くて次第に表はれたり。

十二 青樓日記

白陽東魚撰、北齋畫 江戸 享和二年刊 一册

十三 青樓奇談狐竇這入

十返舎一九撰並畫 江戸 享和二年刊 一册

十四 娼妓 賣飾 商内神

十返舎一九撰並畫 江戸 享和二年刊 二卷二册

十五 倡客眞話 廓意氣地 傳授之卷

十返舎一九撰 享和二年刊 一册

十六 嫖客二體誌

二 深川手習雙紙

鹽屋艶二撰、北溪畫 江戸 刊本 一册

十方茂内撰 江戸 一册

三 仕懸 仇手本

幕莫

小金あつ丸撰、北齋畫 江戸 刊本 一册

三 白狐傳

鹽屋艶二撰 江戸 文化元年刊 一册

四 娼妓 美談 籬の花

鼻山人撰、北溪畫 江戸 文化十四年刊 一册

この書外形こそ洒落本なれど、内容は全く人情本の性質を帯びて續編を有せり。かくて文政に至り人情本の流行を見るに至れり。

五 籬の花 廓宇久爲壽

後編

鼻山人撰 江戸 文政元年刊 一册

六 虚實情夜櫻

梅松亭庭鷺撰 江戸 刊本 一册

七 東海探話

美芳野山人撰 江戸 文政四年刊 一册

第九 噺本類

一 戲言養氣集

元和年間刊(活版) 二卷二冊

此書は噺本中の最古のものと謂ふべく、今流布極めて罕なり。

二 きのはけふの物語

刊本(古活版) 二卷二冊

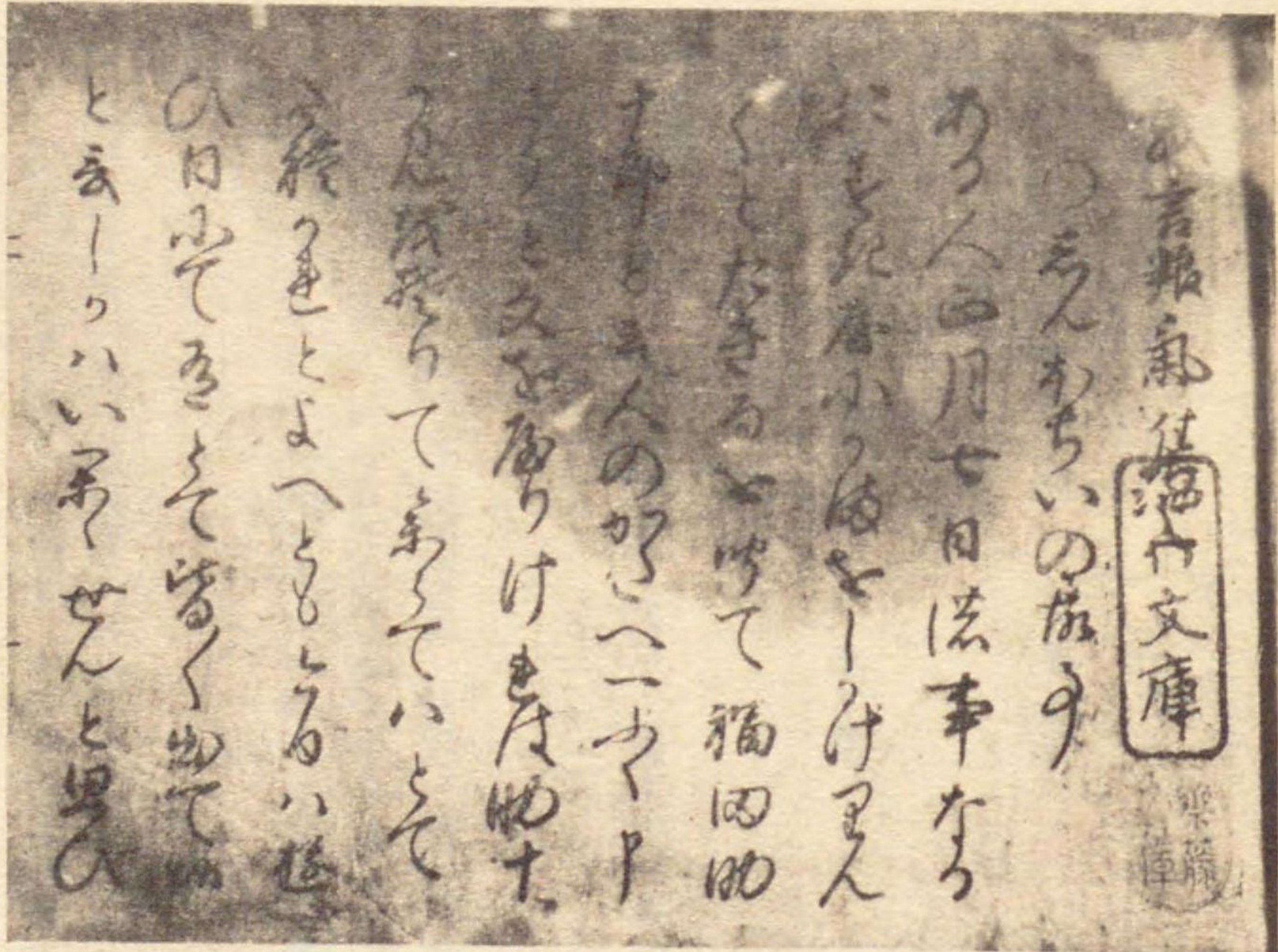
三 きのはけふの物語小形本

刊本(古活版) 一冊

四 醒醉笑

釋策傳(安樂庵)撰 寛永年間刊 六卷二冊

此書序文に元和九年とあれど出版は稍後なるべし。但し江戸時代に入りての最先の噺本と認めらる。尚慶安、萬治の諸版あるにて、此書の大に行はれしを想ふべし。



尾首集氣養言戲 圖三十第

戲言養氣集

上卷首端及下卷末端挿圖

(安田善之助氏)

五 醒醉笑

釋策傳撰 慶安元年刊 八卷三冊

六 醒醉笑

釋策傳撰 萬治元年刊 八卷三冊

七 繪しかたばなし

中川喜雲撰、菱川師宣畫 江戸 寛文十一年刊 五卷四冊合二冊

八 鹿の巻筆

鹿野武左衛門撰、古山師重畫 江戸 貞享三年刊 五卷(缺卷三)合一冊

著者は江戸に於ける座敷仕形噺の名人として知らる、本書中堺町劇場に於ける馬の顔見世と題する一話より著者測らずも罪を得、元祿七年大島に謫せられ、本書亦絶版を命ぜられたり。

九 正直ばなし

石川流舟撰、菱川師宣畫 江戸 元祿二年刊 五卷五冊

著者は一に流宣とも號し、鹿野武左衛門の友人にして輕口に妙を得たりと云ふ。

一〇 かる口露がはなし

露の五郎兵衛撰 京都 元祿四年刊 五卷五册合一册

著者は京都に於ける辻噺の鼻祖にして、江戸の鹿野武左衛門の座敷噺に對し落語界東西の二名人と稱せられたり。

二 露五郎兵衛新はなし

京都 元祿十四年 一册

三 もみぢ傘

元祿年間刊(?) 二卷合一册

上卷は「もみぢ傘」と題し、下卷は「江戸すすめ」と題せり。

三 福祿壽

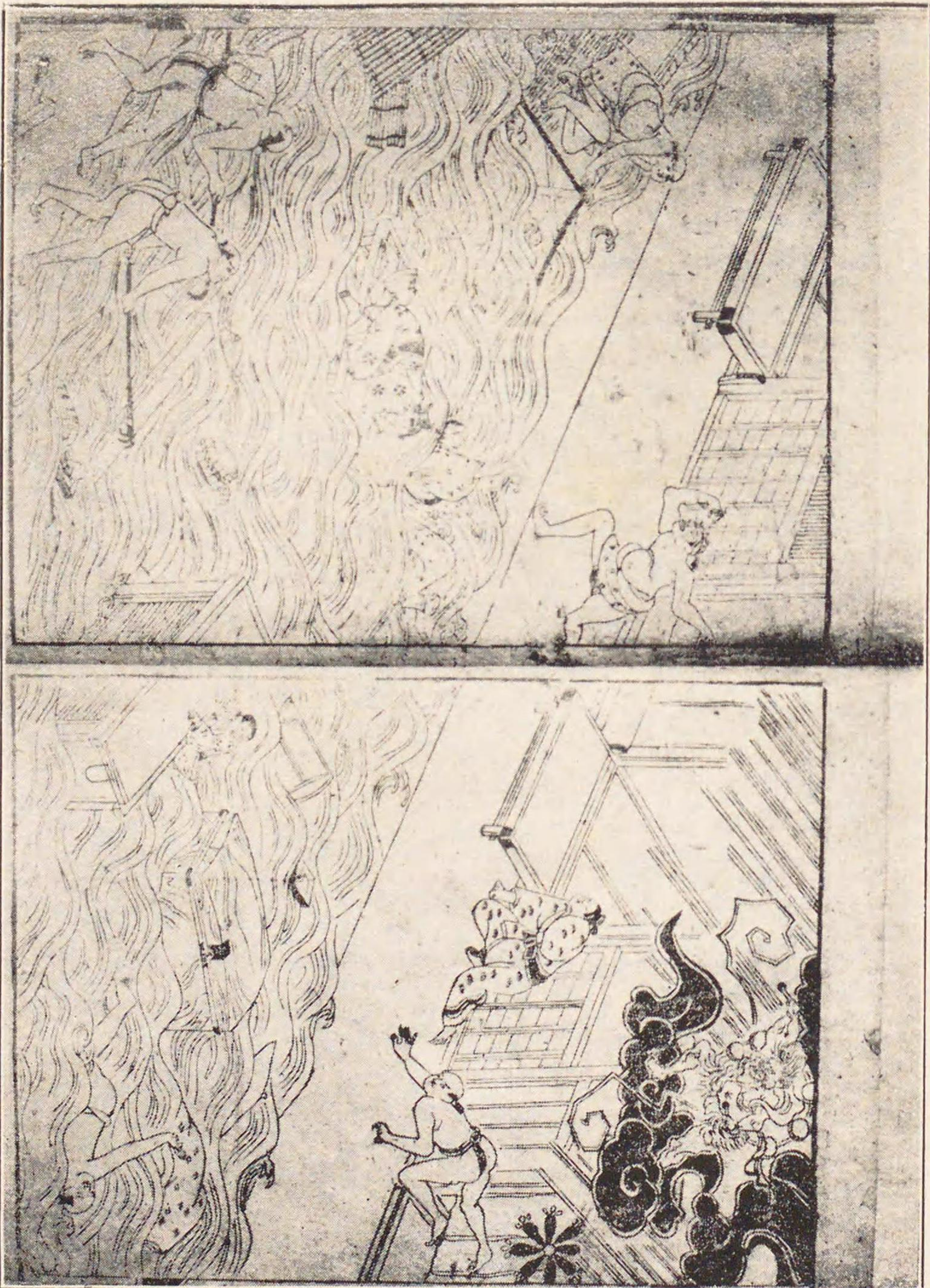
空言堂露嫌撰 京都等 寶永五年刊 四卷四册

著者の名を「つゆもどき」と訓せたるを見れば、露の五郎兵衛の流亞を以て甘んずるなるべし。

二四 つれづれ御とぎ草

江戸 寶永七年刊 一册

此頃噺本の江戸にて刊行せらるゝもの稀なりしが、此書江戸傳馬町鶴喜より發行、世人以て珍とせり。



圖插 しなは新衛兵郎五露 圖四十第

二五 かる口利益咄

京都 寶永七年刊 五卷五册合一册

二六 はなし大全

寶永頃刊 一册

二七 輕口福藏主

京都 正徳六年刊 五卷五册

元禄以來輕口噺の名人漸く其跡を絶ち、本書の如きは僅に噺本の命脈を維けるものなり。

二八 咲顔福門

江島屋其磧撰、西川祐信畫(?) 江戸等 享保十七年刊 五卷五册

二九 輕口福徳利

故應齋玉花撰 江戸 寶曆三年刊 五卷五册

三〇 聞上手第二編

小松屋百龜撰 江戸 安永三年刊 一册

第九 噺本類

此書落語小本の始なり。噺本は從來上方の半紙形なりしが、本書（初編安永元年刊）出でてより一變じ、洒落本と同形となり、内容も亦純江戸式の簡捷奇警を喜ぶに至れり。

二 いちのもり

來風山人撰 江戸 安永四年刊 一冊

三 落し咄

麻布光交撰 江戸 安永五年刊 一冊

三 落咄し 御望次第 卽席料理

萬載亭、千束舎共撰 江戸 天明元年刊(?) 一冊

四 落 噺語満在

非咎話樂翁撰 江戸 天明二年刊 一冊

三 笑府袷裂米 外四種合綴

曲亭馬琴撰、北尾政美畫 江戸 寛政五年刊 一冊

六 落 噺詞葉の花

烏亭馬馬撰 江戸 寛政九年刊 二冊

著者は江戸落語中興の祖と稱せらる。又此書は「落噺六義」とも稱せられ、著者竝に社中の人々の作を集めたるものにて、落語に關する同種の書の始なり。

七 新 話違ひなし

野暮天撰 大坂 寛政九年刊 五卷五冊

六 落 噺 福種蒔

十返舎一九撰 江戸 享和元年刊 二卷一冊

元 新撰勸進話

白川堂灌河撰 京都 享和二年刊 五卷五冊

三 山おとしの笑ばなし

享和二年刊(?) 一冊

三 しみのすみか物語

石川雅望撰 名古屋 文化二年刊 二卷二冊

擬古文體の作にて題材を普通の噺本に採りたるもの多けれど、亦一種の趣致あり。後世之を學ぶものあ

れど概れ遠く及ばず。

三 鬼福助噺

榮邑堂邑二撰、十返舎一九校 江戸 文化二年刊 一册

三 新板浪速みやげ

しかた噺 京都 文化五年刊 二卷二册

三 落噺驛路馬士唄

二世戀川春町撰 江戸 文化十一年刊 二卷合一册

三 おとし富久喜多留

おとし 談語樓銀馬撰、勝汲壺春亭畫 江戸 文化十一年刊 一册

三 落は笑嘉登

談語樓銀馬撰、喜多川月磨畫 江戸 刊本 一册

三 甲子待鼠噺口豆飯

櫻川慈悲成撰 江戸 刊本 一册

三 獨樂新話

虎溪山人撰 江戸 刊本 一册

三 おとぎばなし

志満山人(歌川國信)撰並畫 江戸 文政五年刊 三卷三册

三 落噺顛懸鎖

和來山人撰、有樂齋畫 大坂等 文政九年刊 五卷五册

三 滑稽笑顔種

柳園種春撰、曉鐘成畫 大坂 文政十年刊 五卷五册

三 開卷百笑

烏亭馬撰 天保十年刊 京都等 二卷二册

この書は寛政十年刊「無事志有意」の改題再版なり。

三 落話江戸嬉笑

福亭三笑撰、歌川國輝畫 江戸 嘉永三年刊 一册

四 臍の宿替

桂文治撰、淺山蘆國畫 江戸等 文久三年刊 五卷五册

落語専門家の作却て型に入りて興味を少くを見るべし。此種の作此頃甚だ多く、殊に大坂製のものゝ陋とす。

五 落噺生鯖船初編

柳亭種彦自筆稿本 一册

第十 怪談本類

怪談にして讀本、黄表紙、草雙紙等に屬するものは該當各類に收めたり。

一 伽婢子

淺井了意撰 大坂 寛文六年刊 十三卷十三册

二 伽婢子

淺井了意撰 京都 元祿十二年刊 十三卷十三册
本書は前者の縮刻本と稱すべきものにて、別刻なれども内容に異同無し。

三 宗祇諸國物語

江戸 貞享二年刊 五卷合一册

四 狗波利子

淺井了意撰 京都 元祿五年刊 七卷七册

五 當世雜談御前於伽婢子

都の錦撰 京都等 元祿十五年刊 六卷六册

第十 怪談本類

六 曾呂利話

刊本 五卷五册

七 廻國一夜宿

江戸 刊本 六卷六册

八 怪談御伽櫻

都塵舎雲峯撰 京都 五卷五册

九 御伽厚化粧

中尾筆天齋撰並畫 尼崎 享保十九年刊 五卷五册

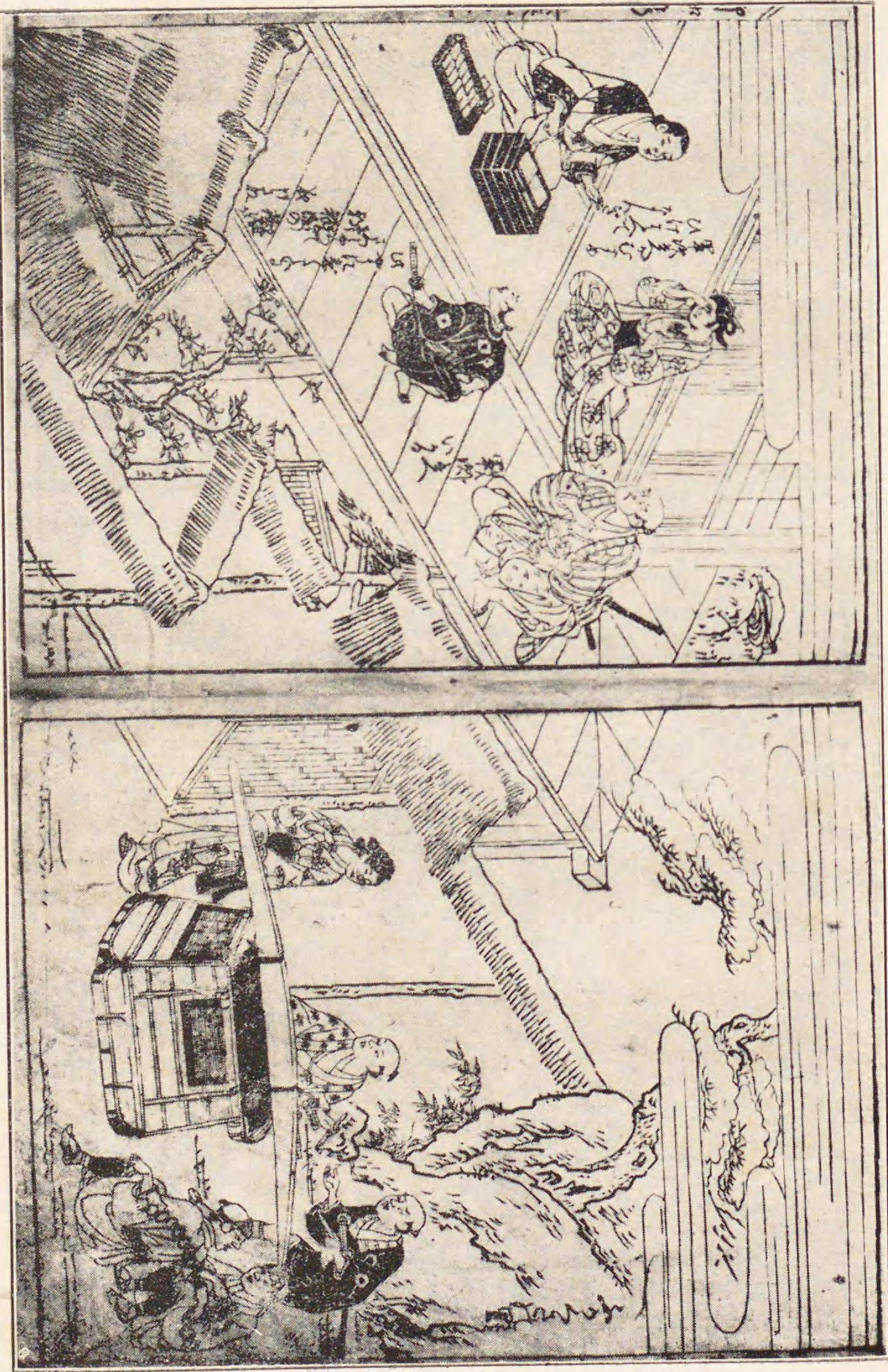
10 怪談登志男

慙雪舎素及子撰 江戸 寛延三年刊 五卷五册

二 古今 奇異 茅屋夜話

隠几子撰 江戸 寶曆五年刊 五卷五册

三 化物判取牒



圖插一卷 櫻伽御談怪 圖五十第

敬阿撰 江戸 寶曆五年刊 四卷四册

三 近代百物語

鳥飼醉雅撰 大坂 明和七年刊 五卷五册

四 怪談見聞實記

中西如環子撰 京都 安永九年刊 五卷五册

五 近代見聞善惡業報因緣集

一叢軒露宿撰 京都 天明八年刊 五卷五册

六 古今實說怪談御伽童

京都 明和九年刊 五卷五册

七 こし地の雪

魚鷹撰 大坂 寛政十年刊 五卷五册

八 奇說徒然草

第十 怪談本類

第十 怪談本類

大坂 寛政十二年刊 四卷四册

一九 中古
奇談雙葉草

東男子撰、十返舎一九校竝畫 江戸 享和二年刊 五卷五册

第十一 滑稽本

一 田舎芝居

風來山人(二世)撰 江戸 天明七年刊 一册

この書文化文政頃盛なりし滑稽本の備をなせるものにて、全く洒落本の體をばなれて田舎芝居のをかしまを書けり。其序文は京傳を怒らしめたりといふ。

二 東海道中膝栗毛

十返舎一九撰、榮水口畫 江戸等 享和二至文化六年刊 十八卷十八册

この書所謂中本の滑稽本が小本なる洒落本より獨立して天下を風靡するに至りし最初のものなり。

三 續膝栗毛

十返舎一九撰、墨亭月磨畫 江戸 文化七至文政五年刊(明治十四年補刻) 十二卷二十五册
この書金比羅參詣、宮島參詣、木曾街道の十二編より成り、以て「膝栗毛」を完結せり。

四 滑稽素人芝居

櫻川慈悲成撰、歌川豊國畫 江戸 享和三年刊 一册

五 有喜世物真似舊觀帖

感和亭鬼武等撰、歌川美丸等畫 江戸 文化二至文政五年刊 六卷六册

六 住吉街道綾線戯

桃尻山人撰 大坂 文化三年刊 二卷二册

七 オドクバナン 譚話浮世風呂

式亭三馬撰、北川美丸等畫 江戸 文化六、九、十、文政三年刊 九卷九册
三馬一夕歌川豊國の許にて三笑亭可樂の落語を聴き、其錢湯の笑談に思巧を得てこの書を作りしに、いたく人氣に投じて當時の戯作界評判第一なりきと云ふ。

八 十二支介科口技腹佳話鸚鵡八藝

山東京山撰、歌川豊國畫 江戸 文化六年刊 一册

九 市中滑稽蛙のあゆみ

一鷄亭美山撰、合川亭珉和畫 京都 文化六年刊 二卷二册

十 剽脱畫帖浮世七技早變胸機關

式亭三馬撰、歌川豊國畫 江戸 文化七年刊 一册

二 人間一生伊吾物語

梅暮里谷峩撰、醉醒樓北嵩畫 江戸 文化七年刊 一册

三 串戲六阿彌陀詣

十返舎一九撰、喜多川月麿畫 江戸 文化八至十年刊 六卷六册

三 串戲二日醉

十返舎一九撰、醉醒軒北嵩畫 江戸 文化八年刊 二册

四 忠臣藏偏痴氣論

式亭三馬撰、歌川國直畫 江戸 文化九年刊 二卷二册

五 成田道中黄金駒

赤須賀米撰、葛飾北岱畫 江戸 文化九年刊 二卷二册

六 例之酒癖一盃綺言

式亭三馬撰、歌川豊國畫 江戸 文化十年刊 一册

三馬が最も得意の小品の一なり。

七 人間萬事誕計

式亭三馬撰、瀧亭鯉丈補、歌川國直、同國貞畫 江戸 文化十、天保四年刊 二卷三冊

六 善惡人心視機關

式亭三馬撰、歌川國直畫 江戸 文化十一年 二卷二冊
この書後編三卷を出せれど、梅亭金鷲の補へるものにして、もとより三馬の筆に及ぶべくもあらず。

元 片言雑話 田舎講釋

東里山人撰、歌川國信畫 江戸 文化十二年刊 一冊

三 現金御利生 千社參

赤須賀米撰、歌川國芳畫 江戸 文化十二年刊 二卷二冊

三 口豆飯茶番樂屋

櫻川慈悲成撰、歌川國直畫 江戸 文化十三年刊 二卷二冊

三 願懸注文帳

東西菴南北撰、柳川重信畫 江戸 文化十四年刊 一冊

三 大山道中栗毛後駿足

瀧亭鯉丈撰、歌川國直、溪齋英泉畫 江戸 文化十四、文政元、五年刊 六卷六冊
この書天保三、四年に至り「大山道中膝栗毛」と題して發行せり。

二 水中魚論 丘釣話 初編

岡山鳥撰、錦亭鳴蟲畫 江戸 文政二年刊 一冊

三 花曆八笑人

瀧亭鯉丈等撰、溪齋英泉等畫 江戸 文政三、四、十一、天保五、嘉永二年刊 十五卷十五冊

三 滑稽和合人 附春水自筆稿本(第五、六編)

瀧亭鯉丈、爲永春水共撰、溪齋英泉、歌川國直畫 江戸 文政六至弘化二年刊 十五卷十五冊
この書第四編(卷十三)より爲永春水の筆に成れり。

七 青柳新話 玉櫛笥(一名、女浮世床)

式亭三馬撰、春齋英笑畫 江戸 文政九年刊 一冊

この書三馬の歿後、其遺稿を門人爲永春水校合上梓すと云ふといへども、三馬の筆に似ず、人情本の書きぶりに類せり。恐らくは春水が師名を借りての戯作ならん。

六 戲貧福太平記

平安堂菓林、春の屋樑翁共撰、まねけ庵補、森川飄々畫 大坂(?) 文政九、文久三年刊 六卷六册

元 日待 滑稽 巨慶二笑

文東陳人撰、菱川政信畫 江戸 文政十一年刊 三卷三册

三 滑稽 質屋雜談

瀧亭鯉丈撰、歌川國芳畫 江戸 文政十四年刊 三卷三册

三 滑稽 枯木之花

三笑亭可樂撰、歌川國芳畫 江戸 天保三年刊 一册

三 滑稽 驛路梅

石橋菴増井撰、梅亭美漢畫 京都 天保三年刊 三卷三册

三 滑稽 御影參

教訓

三 滑稽 變宅論

山川澄成撰、菱川清晴畫 大坂 天保三年刊(?) 十卷十册

山月菴主人撰、菱川清春畫 天保四年刊 二卷二册

三 溫泉 箱根艸

瀧亭鯉丈、爲永春水共撰、溪齋英泉畫 江戸 弘化元、二年刊 十二卷四册

三 滑稽 道中 宮島土産

十方舎一丸撰並畫 江戸等 嘉永四年刊 六卷六册

三 浮世笑談 穴佐賀志 初篇

乾坤房(梅澤良助)自筆稿本 一册

三 金のわらじ 四、五、六、九、二十五篇

十返舎一九自筆稿本 五册

第十二 人情本類

一 契情肝粒志

鼻山人撰、英齋泉壽、陽齋信丸等畫 江戸 文政八、九年刊 十一卷十一册
この書洒落本の肝粒志を人情本に引なほし其後を續けしものにて、當時大に行はれたり。

二 孝女美談時雨の袖

瀬川路考撰、溪齋英泉畫 江戸 文政八年刊 九卷九册

三 風俗粹好傳

鼻山人撰、溪齋英泉畫 江戸 文政八年刊 六卷六册

四 凌霜俚談菊廼井草紙

爲永春水、驛亭駒人共撰、溪齋英泉、歌川國安畫 江戸 文政八至十二年刊 十二卷十二册

五 松月露譚玉川日記

南仙笑楚滿人撰、溪齋英泉、英笑畫 江戸 文政八、十年刊 六卷六册

六 雨窓珍說女小學

瀧亭鯉丈撰、淺草亭梅里畫 江戸 文政十二、天保二年刊 六卷六册

七 鴨東老樓志

胡蝶菴主人撰、曉鐘成畫 京都 天保三年刊 三卷三册

八 春色梅曆

爲永春水撰、柳川重信畫 江戸 天保四年刊 十二卷十二册

春水この書を出して文名一時に上り、自ら稱して東都人情本一流の元祖なりと云へり。

九 春色惠の花

爲永春水撰、溪齋英泉畫 江戸 天保五年刊 六卷六册

一〇 春色辰巳園

爲永春水撰、歌川國直畫 江戸 天保六年刊 十二卷十二册

二 正史實傳いろは文庫

第十二 人情本類

爲永春水撰、溪齋英泉等畫 江戸 天保七年至…刊 五十四卷十八册
本書は題材を史實に採りたれど、敘述法は全く人情本的にして、かれこれ異彩あるものとす。作者につきては二世春水の作なりとも傳ふれど如何にや。全編完結の年代も詳ならず。

三 兩個女兒郭花笠

松亭金水撰、歌川國直畫 江戸 天保七年刊 十二卷十二册

三 英對暖語

爲永春水撰、歌川國直畫 江戸 天保八年刊 十五卷十五册

四 教外娘消息

三文舍自樂撰、爲永春水補、柳川重信、靜齋英一畫 江戸 天保十年刊 十二卷十二册

五 夜三月柳の横櫛

梅亭金鷲撰、梅之本鶯齋畫 江戸 刊本 十五卷十五册

六 春月二對雛初篇
桃花

爲永春雅自筆稿本 一册

第十三 草雙紙類

一 妹は緑姉は紅都の春讐を柱

山東京山撰、歌川豊廣畫 文化六年刊 六卷合二册
本書はなほ黄表紙の體を脱せず、正に草雙紙との過渡期にあるものなり。

二 花吹雪若衆宗立

柳亭種彦撰、勝川春扇畫 文化十年刊 六卷合一册

三 近松門作曾我昔狂言

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文化十四年刊 三卷合一册

四 於梅全傳高野山萬年草紙

柳亭種彦撰、柳川重信畫 文化十四年刊 六卷合一册

五 昔謠猿狂言

山東京山撰、柳川重信畫 文化十四年刊 五卷合一册

六 兄弟邂逅兩劍德

市二三撰、歌川美丸畫 文政三年刊 三卷合一册

七 門の青柳 袖の梅香 淺間嶽煙之姿繪

柳亭種彦撰、柳川重信畫 文政三年刊 六卷合一册

八 趣向は淨瑠璃 世界は歌舞伎 畫傀儡二面鏡

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政三年刊 六卷合一册

九 小春 枯梗辻千種之衫 治兵衛

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政三年刊 五卷合一册

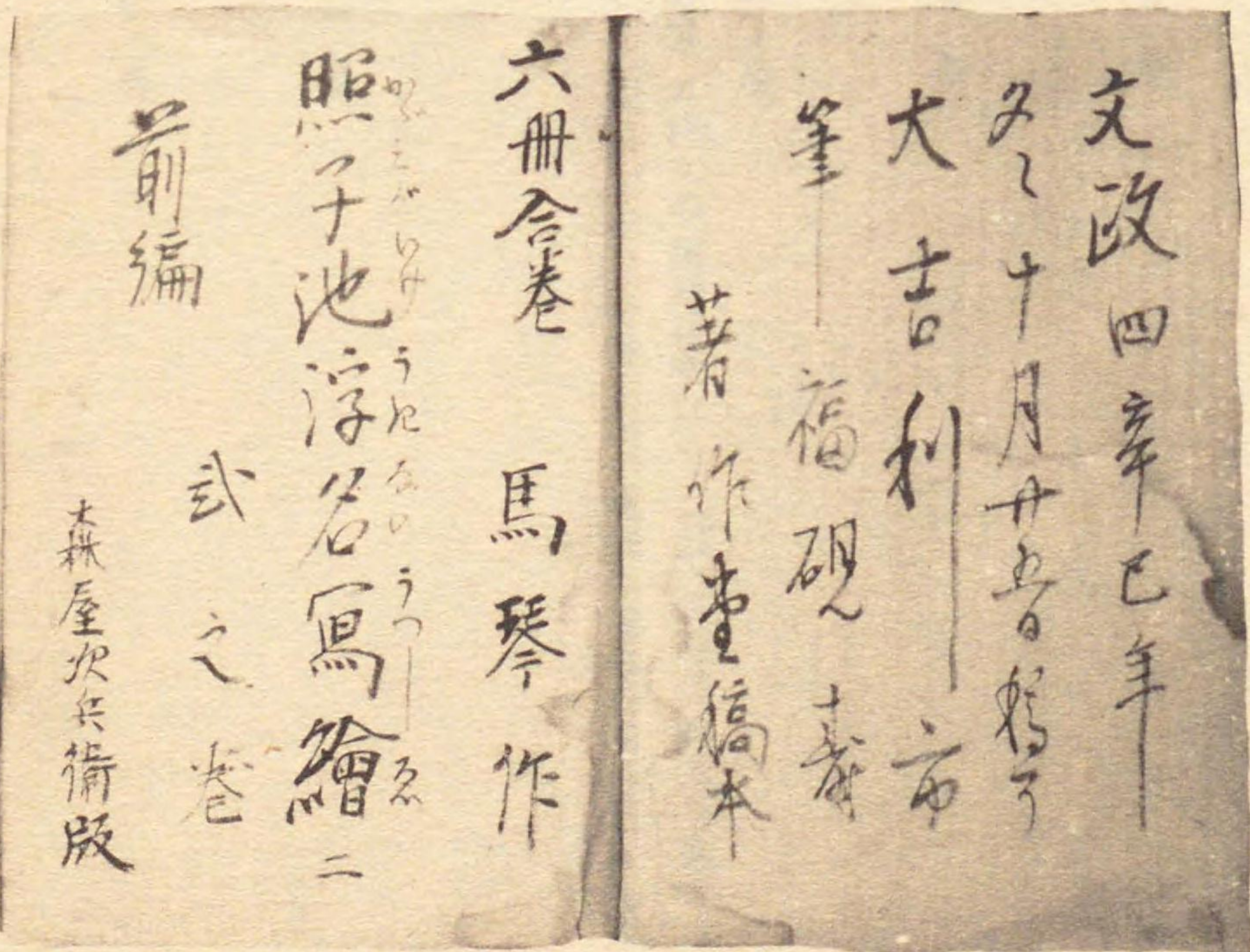
一〇 正本製餘興七役雙紙

附著者自筆稿本(第十編)

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政三年刊 六卷合一册

二 新彫 道中雙六

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政四年刊 六卷合一册



第十圖 著者馬琴自筆稿本 照子池浮名寫繪

三 島田之黒本娘金平昔繪草紙

前垂之赤本 柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政四年刊 六卷合一册

三 娘狂言三勝話

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政四年刊 六卷合一册

四 雁金屋采女カガミガイケ照子池浮名寫繪 附著者自筆稿本
蠅屋袈裟次郎

曲亭馬琴撰、溪齋英泉畫 文政五年刊 六卷合一册

著者自筆の稿本餘白に於ける筆耕及插畫家に對する注文の周到細密なる、以て馬琴の爲人を窺ふに足る。圖中の人物を當時の名優の肖顔にて表出せしめんとせる、如何に彼が演劇に趣味を有ちしかを見るべし。

五 出村新兵衛鯨帶博多合三國
小町屋宗七

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政五年刊 六卷合一册

六 浮世一休花街問答

柳亭種彦撰、歌川豐國畫 文政五年刊 六卷合一册

一七 於千代半兵衛新うつぼ物語

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政六年刊 六卷合一冊

一八 お八郎兵衛妻小脇差夢の蝶鮫

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政六年刊 六卷合一冊

一九 浦里時次郎阿菊孝助花艳名所扇

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政八年刊 六卷合一冊

二〇 傾城水滸傳

曲亭馬琴撰、歌川豐國畫 文政八年刊 八卷合一冊

二一 紅粉小萬經師屋阿三笹色猪口唇手

柳亭種彦撰、歌川豐國畫 文政九年刊 六卷合一冊

二二 六様まゐるかしくの小傳蛙歌春土手節

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 文政九年刊 六卷合一冊

二三 女扇忠臣要

鶴屋南北撰、歌川國貞畫 文政九年刊 六卷合一冊

二四 女扇のいろは演義後編

鶴屋南北撰、歌川國貞畫 文政十年刊 六卷合一冊

二五 修紫田舎源氏

柳亭種彦撰、歌川國貞畫 江戸 文政十二至天保十二年刊 三十八編七十六卷合十九冊

草雙紙の作從來一部數卷に止まりしが、是に至りて始めて長篇大作あり。種彦の名此より大に揚り畫者國貞も亦好評を博し、田舎源氏の錦繪數百種を出して紙價を昂らしめたり。

二六 菊壽童霞杯

山東京山撰、歌川豐國、同國貞畫 天保元至嘉永二年刊 十編二十卷合四冊

二七 富士裾うかれの蝶衛

柳亭種彦撰、溪齋英泉畫 天保二年刊 四卷合一冊

二八 新編金瓶梅

附著者自筆稿本(第九集四之卷)

第十三 草雙紙類

曲亭馬琴撰、歌川國貞等畫 天保二至十三年、弘化四年刊 十卷十册

元 出世奴小萬傳

柳亭種彦撰、歌川國直畫 天保四年刊 四卷合一册

三 關東小六昔舞臺

柳亭種彦撰、歌川貞秀畫 天保六年刊 八卷合一册

三 白木屋阿駒清書冊子

附著者自筆稿本

柳亭種彦、瓢亭種繁撰、歌川貞秀畫 天保八年刊 二卷合一册

三 仇討貞女鑑

山東京山撰、歌川國貞畫 天保十五年刊 三卷合一册

三 忠義教誠赤松譚

如淵外史撰、歌川豐國、同國磨畫 弘化四至嘉永七年刊 九編十八卷合五册

三 春の文かしくの草子

山東京山撰、歌川豐國畫 弘化五至嘉永四年刊 七編十四卷合三册

三 英雄五大力

万亭應賀撰、歌川豐國等畫 弘化五至嘉永五年刊 五編十卷合二册

三 七草四郎

若菜姫 白縫譚 附著者自筆稿本(第六十五、七十編)

柳下亭種員等撰、歌川豐國等畫 嘉永二至明治年間刊 六十編百二十卷三十册

三 釋迦八相倭文庫

万亭應賀撰、歌川豐國畫 嘉永二至明治年間刊 五十七編百十四卷合二十九册

三 俠客傳仆模略説

樂亭西馬撰、歌川豐國、同國輝畫 嘉永三、四年刊 四編八卷合二册

三 浮寢烏隴漣

空中樓花咲翁撰、歌川豐國畫 嘉永三至安政元年刊 五編十卷合二册

四 庭訓武藏燈

万亭應賀撰、歌川豐國等畫 嘉永三至安政三年刊 六編十二卷合二册

四 釜が淵水増石川

第十三 草雙紙類

花笠文京撰、歌川國芳畫 嘉永四年刊 三編六卷合一册

三 弓張月春の宵榮

樂亭西馬撰、歌川國輝畫 嘉永四至七年刊 十五編三十卷合七册

三 島巡浪間朝日奈

柳下亭種員撰、歌川國輝、同國貞畫 嘉永四至八年刊 七編十四卷合三册

四 連理翅山鷄奇縁

樂亭西馬撰、歌川國政等畫 嘉永五至七年刊 五編十卷合三册

四 八重撫子累物語

笠亭仙果撰、歌川國貞、同國清畫 嘉永六至安政三年刊 五編十卷合二册

四 松浦水棹婦言

笠亭仙果撰、歌川國芳、同國久畫 嘉永六至安政三年刊 五編十卷合二册

四 蔦紅葉宇津谷峠

柳水亭種清撰、歌川國貞畫 安永四年刊 三編六卷合一册

四 佐野の渡雪の八ッ橋

爲永春水撰、歌川國鷹、同國貞畫 安政四至六年刊 七編十四卷合三册

四 花曇朧夜草紙

爲永春水撰、歌川國貞畫 安政四至萬延二年刊 六編十二卷合三册

五

品川東馬
大井川浪五郎
三條富士松

柳下亭種員撰、歌川豐國畫 刊本 四卷合一册

五 假枕巽八景

假名垣魯文撰、歌川國周畫 元治元年刊 四卷合二册

五 童歌妙妙車

柳下亭種員撰、歌川國貞畫 慶應四至明治年間刊 十五編三十卷合五册

五 毬唄三人むすめ初編上帙

瀨川如臯自筆稿本 一册

第十三 草雙紙類

酉

忠孝早染草初編

山東京山自筆稿本

二卷二冊

丑

猫の草紙第三編

山東京山自筆稿本

二卷二冊

亥

兩黑塚夜凧

紫竹堂自筆稿本

一冊

(終)

